1

基本計画書

	基		本		計	画		
事	項	į	記 記	入		欄	備	考
計	画の区分	学部の学科の	設置					
フ 設	リ ガ ナ 置 者	ガッコウホウジン ト 学校法人 東	ウキョウケイサ゛イタ゛イカ゛ク ・ 古 奴 汝 七 学					
フ	<u></u> リ ガ ナ	<u> </u>						
大		東京経済大学	: (Tokyo Keiz)			
大	学本部の位置	東京都国分寺	市南町1丁目7都	译 34号				
大	学 の 目 的					く専門の学術を教授研究し こ寄与することを目的とす		
新	設学部等の目的	コミュニケ(人) コミュニケ(人) スト (人) 基礎 でいる。 まる はいる とりか まる でいまる でいま でいま でいま でいま でいま かして がいして アルカー アルカー アルカー アルカー アルカー アルカー アルカー アルカー	ョン学科を設置、いきない語組のでは、いい語組みでは、コールでは、コールでは、コールでは、コールでは、アインでは、アインでは、アインでは、アインがは、アインがは、アインが、アインが、アインが、アインが、アインが、アインが、アインが、アインが	きする。国の内 、コト(情報) ・ケーションと ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外を問わず加速・ の「移動(mol 関連づけないで 関連でに応じた異 環境に柔軟に対 にまない。 を を を を が を が を が を が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で に で	こ継承するかたちで、国際する社会のグローバル化がility/mobilities)」と理解する学びを目的とす文化体験と移動を多面的に立てきるコミュニケーショできるコミュニケーショで方定)」との両輪性をいっを活用しながら発揮する不可欠な、多様性と変化に		
	新設学部等の名称	修業 入学 年限 定員	編入学 収容定 員 定員		開設時期及 び開設年後			
新設学部等の概要	コミュニケーション学部 [Faculty of Communication studies] 国際コミュニケーション学科 [Department of Transnational Communications]	年 人 4 90 90 90	0 3	人 60 学士(コミュー ニケーショ 学) 【Bachelor Arts in Communicat: Studies】	ン fl年次 of	東京都国分寺市南町1 丁目7番34号		
Ī	司一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	(3年次編入	ション学部 ーション学科- 学定員) 学定員は令和6年	54月学生募集停		(△ 75) (令和4年4 (△ 30)		
教育	新設学部等の名称	講義	開設する授業 演習	美科目の総数 実験・実習	計	卒業要件単位数		
課程		講義 185科目	供省 32科目	<u> </u>	260科目	124単位		

		No. there will be the the			専任参	女員等			兼任	
±/./-		学部等の名称	教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員等	
教	-1		人	人	人	人	J	、人	人	
	新設	コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	6	6	4	_	16		8	
	分		(8)	(6)	(4)	(-)	(18)	(-)	(8)	
員	23	計	6 (8)	6 (6)	4 (4)	— (—)	16 (18)	(-)	8 (8)	
			12	5	4	(-)	21	(-)	31	
	既	経済学部 経済学科	(12)	(5)	(4)	(-)	(21)	(-)	(31)	
組		11 18な 4.4 シャン・ナン・ドイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8	4	1		13		9	
		国際経済学科	(8)	(4)	(1)	(-)	(13)	(-)	(9)	
		経営学部 経営学科	17	3	1	_	21	_	60	
織			(17)	(3)	(1)	(-)	(21)	(-)	(60)	
		流通マーケティング、学科	8	5	1	_	14		16	
	設		(8)	(5)	(1)	(-)	(14)	(-)	(16)	「人手」
σ	叹	コミュニケーション学部 メディア社会学科	10	2	3	_	15	-	15	「令和4年4月 名称変更届出
		-(1-) (3) 于品	(11)	(2)	(3)	(-)	(16)	(-)	(15)	(予定)」
		現代法学部 現代法学科	17	4	3	_	24	_	60	
概		STRATE STRATE	(17)	(4)	(3)	(-)	(24)	(-)	(60)	
113/1		全学共通教育センター	15	14	13	_	42		0	
			(15) 87	(14) 37	(13) 26	(-)	(42) 150	(-)	(0) 191	
	分	計	(88)	(37)	(26)	(-)	(151)	(-)	(191)	
要			93	43	30	_	166		199	
		合 計	(96)	(43)	(30)	(-)	(169)	(-)	(199)	
		職種	専	任		兼任		計		
教		事務職員	_		人	38	人	141	/ *	
員以		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(105)		(38)		(143	3)	
外外		技 術 職 員		2		6		8		
\mathcal{O}				(2) 9		(6) 12		(8)		
職		図 書館 専門職員		9 (9)		(12)		(21		
員の				6		37		43		
概		その他の職員		(6)		(37)		(43)	
要		計		120		93		213		
		HI	(122)		(93)		(215	5)	

校			区		分			専	用		共	用			用する 校等の				計	
110		校	舎	j	敦 :	地			97, 379	m²		_	m²		— —		m²		97, 379 m²	1
地		運	動	場	用:	地			39, 655	m²		_	m²				m²		39, 655 m²	1
, .		小			i	計		1	37, 034	m²		_	m²		_		m²	1	.37, 034 m ²	1
等		そ		の	1	他			10, 539	m²		—	m²		_		m²		10, 539 m²]
.,		合			i	計		1	47, 573	m²		_	m²		_		m²	1	.47, 573 m ²	
								専	用		共	用			用する 校等の				計	
		校		舎	:				65, 144	m²		_	m²		_		m²		65, 144 m²	1
									, 144	m²)	(m²)	(m²	<u> </u>		5, 144 m ²)	
				講	義室			演	習室		実験	実習	室	情報	処理学		_	吾学:	学習施設	_
教皇	宦等					56	室			42室			4室	/ L N			室	N m L m		大学全体
									立にご	L 224 47 /r	等の名称			(補.	助職員	0人) 室	数 数		職員 人)	
専	任	教	員	研	究	室		国際コミュニ			野の名 你					主 18				-
								図書	/ / 1/ -	学術業	推誌				LEI mb. N					
図	新設学部等の名称					[うっ	ち外国書]		うち外			ジャー		倪聰原	1.資料	機械・岩		標本	
書									冊	011 [4	種		ち外国			点		点	点	学科単位で特定
· 設	国際	国際コミュニケーション学科						9 [258, 981] 69 [258, 981]		011 (4,	, 934] 1, 934])		5 [4, 7 05 [4, 7		(2,2	2,283	(0	()	不能なため、大 学全体の数
備						₩		9 [258, 981]	+	011 (4			5 [4, 7		(2,2	2.283	(0	0	4
			計					69 [258, 981]			, 934])		05 (4,7		(2,2	,	()	()	
							,-	面積		, (-	, ,		覧座店		(2,2	収	納可		冊数	
		図書	館						6	, 649 1	n²				680				870, 940	1 2/4 /4 /4
		体型	合合					面积	責				体育	館以外	のスホ	パーツカ	を設の概	要		大学全体
	体育館									1 808				1面			ニスコ		9面 他	
	区分							開設前年	_	1年次		年次		年次	第4		第5年	次	第6年次	大学全体。
	経費 教員1人当り研究							\	千円	574千		574千		574千	-	_		_	図書購入費には 電子ジャーナル・デー	
経費	費 の の見 共 同 研 究 費 積 り ^{積り} 図 書 購 入				等		_	00千円			4, 500		4, 500				_	タベースの整備費		
及び	び維 <u> </u>					176, 419千	_		9 176, 41		176, 41		176, 41				_	(運用コストを含 む)を含む。		
	方法 設備購入 概要 学生1人当り					_		104,000千		000干F 年次	_	0年円 3 年次)千円 第4年	56, 400 = ₩			\top	第6年次	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
~ / IA/L	~	字	主 1 納作		り			294千円		平次 144千F		3 年次 , 144千			4千円		一	+	カリ 午込	1
	\vdash	学			令以外	し の納		方法の概			· 収入、智					よって	て維持を	 		1
		1	/11	-1 4 <u>-</u>		- 2 AP	-,,	100	^	• >>\\	V-/ ** B	4 1 4 <u>-16</u> -	· · //	. 0 11119	· /-/		- //m-1 1 C	_ a	. 0	ı

学部等の名称 修業の保験を設します。 入学を設します。 収容によりを設します。 収容によりを設定する。 収容によりを設定する。 収容によりを設定する。 日本のではあります。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではままするとは、まます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。 日本のではまます。	大 学 の 名 科	東京経	済大学								
経済学部 経済学科 4 155 - 1500 学士 (経済学) 1.00 昭和24年度 1.00 昭和24年度 1.00 昭和24年度 1.00 昭和39年度 1.00 平成10年度 1.00 平成12年度 1.01 平成7年度 1.01 平成7年度 1.01 平成7年度 1.01 平成7年度 1.01 平成12年度 1.01 平成12年度 1.01 平成12年度 1.01 平成12年度 1.01 平成12年度 1.01 平成12年度 1.01 中 20 修士 (経済学) 0.20 昭和59年度 1.02 平成11年度 1.01 平成16年度 1.02 平成11年度 1.02	学 部 等 の 名 移						定 員 超過率		所	在	地
経済学科 経済学科 4 375 - 1500 学士 (経済学) 1.00 零和24年度 国際経済学科 4 155 - 620 学士 (経済学) 1.00 零和24年度 経営学科 経営学科 4 385 - 3年次 活通マーケティング・学科 4 180 30 780 学士 (議済学) 1.00 零和23年度 コミュナーション学部 3年次 3年次 1.01 平成7年度 現代法学部 3年次 3年次 1.01 平成7年度 現代法学科 4 250 20 1040 学士 (現代法学) 1.03 平成12年度 大学院修士課程経済学研究科 経済学研究科 経済学研究科 国主ューケーション学研究科 コミューケーション学研究科 コミューケーション学研究科 コミューケーション学の研究科 コミューケーション学の研究科 現代法学・専攻 2 10 - 20 修士 (経済学) 0.20 零和15年度 現代法学研究科 現代法学の表 コミューケーション学研究科 現代法学の表 コミューケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーションを表 コーケーションを表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーション学の表 コーケーションを表 コーケーション		年	人		人		倍				
経営学科 4 385 - 1540 学士(経営学) 1.00 昭和39年度 流通マーケティンケ 学科 4 180 30 780 学士(流通 マーケティンケ 学科 1.00 平成10年度 コミュニケーション学部 3年次 3.0 960 学士(コミュニ トンョン学) 1.01 平成7年度 現代法学部 3年次 1.03 平成12年度 大学院修士課程経済学研究科 2 10 - 20 修士(経済学) 0.30 昭和45年度 経営学研究科 2 10 - 20 修士(経済学) 0.20 昭和59年度 コミュニケーション学専攻 2 10 - 20 修士(経済学) 0.20 昭和59年度 現代法学研究科 2 10 - 20 修士(経済学) 0.20 昭和59年度 現代法学研究科 2 2 0 - 40 修士(コミューケーション学) 0.10 平成11年度 現代法学研究科 2 10 - 20 修士(経済学) 0.00 昭和51年度 現代法学研究科 3 5 - 15 博士(経済学) 0.00 昭和51年度 経済学専攻 3 5 - 15 博士(経済学) 0.00 昭和51年度 経済学専攻 3 5 - 15 博士(経済学) 0.00 昭和51年度	経済学科						1.00	昭和24年度			
3年次 3年次 1.01 平成7年度 1.01 平成7年度 1.01 平成7年度 1.01 平成7年度 1.03 平成12年度 1.04 1.0		4	385	— 3年次	1540	学士 (経営学)	1. 00	昭和39年度			
3年次 3年	流通マーケティング学科	4	180	30	780	学士 (流通 マーケティング)	1.00	平成10年度			
現代法学科 4 250 20 1040 学士 (現代法学) 1. 03 平成12年度 大学院修士課程 経済学研究科 経済学専攻 2 10 - 20 修士 (経済学) 0. 30 昭和45年度 経営学研究科 経営学専攻 2 10 - 20 修士 (経営学) 0. 20 昭和59年度 コミュニケーション学研究科 コミュニケーション学専攻 2 20 - 40 修士 (コミュニケーション学) 0. 20 平成11年度 現代法学研究科 現代法学専攻 2 10 - 20 修士 (法学) 0. 10 平成16年度 大学院博士後期課程 経済学研究科 経済学専攻 3 5 - 15 博士 (経済学) 0. 00 昭和51年度 経営学研究科 経営学専攻 3 3 - 9 博士 (経営学) 0. 33 昭和61年度		4	225		960	学士(コミュニ ケーション学)					
経済学研究科		4	250		1040	学士 (現代法学)					
経営学専攻 2 10 - 20 修士 (経営学) 0.20 昭和59年度 コミュニケーション学研究科 コミュニケーション学専攻 2 20 - 40 修士 (コミュニ ケーション学) 0.20 平成11年度 現代法学研究科 現代法学専攻 2 10 - 20 修士 (法学) 0.10 平成16年度 大学院博士後期課程 経済学研究科 経済学専攻 3 5 - 15 博士 (経済学) 0.00 昭和51年度 経営学研究科 経営学専攻 3 3 - 9 博士 (経営学) 0.33 昭和61年度	経済学研究科	2	10	_	20	修士(経済学)					
コミュニケーション学専攻 2 20		2	10	_	20	修士 (経営学)					
現代法学専攻 2 10 - 20 修士(法学) 0.10 平成16年度 大学院博士後期課程 経済学研究科 経済学専攻 3 5 - 15 博士(経済学) 0.00 昭和51年度 経営学研究科 経営学専攻 3 3 - 9 博士(経営学) 0.33 昭和61年度		2	20	-	40						
経済学研究科 3 5 - 15 博士(経済学) 0.00 昭和51年度 経営学研究科 0.33 経営学専攻 3 - 9 博士(経営学) 0.33 昭和61年度		2	10	_	20	修士(法学)					
経営学専攻 3 3 - 9 博士(経営学) 0.33 ^{昭和61年度}	経済学研究科	3	5	_	15	博士(経済学)					
17、7-カーション学研究科 0.33		3	3	_	9	博士(経営学)					
コミュニケーション学専攻 3 5 - 15 博士 (コミュニケーション学) 7 - 15 で 15	コミュニケーション学研究科コミュニケーション学専攻	3	5	_	15		0. 33 0. 33				

¹ 共同学科等の認可の申請及び届出の場合,「計画の区分」,「新設学部等の目的」,「新設学部等の概要」,「教育課程」及び「教員組 織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

^{2 「}教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとすること。

³ 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合 は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、

[「]図書・設備」,「図書館」,「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず,斜線を引くこと。 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には,実技も含むこと。

⁶ 空欄には、「一」又は「該当なし」と記入すること。

(用紙 日本産業規格A4縦型)

4	1		į	数 育 課	程	1 4	手	の	概	要							(地)
(=] ≷ :	ュニケ-	ーション学部国際コミュニケーショ	ン学科)				1			n					T	
						単位数	Ţ.	授	受業形	態実		専任教	女員等(の配置			
	科区		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助	ſ	
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		-11-	総合英語セミナーI	1前・後		2			0	П		1	1				
		英 語	総合英語セミナーⅡ 総合英語セミナーⅢ	1前·後 1前·後		2 2			0			1 1	2 2				
		に関	総合英語セミナーIV	1後		2			0			1	_				
		する	TOEIC I	2・3・4前・後		1			0				1				
		科	TOEIC II TOEIC III	2·3·4前·後 2·3·4後		1 1			0				1 1				
		目	小計 (7科目)	-	0	11	0		_		0	1	2	0	0		
			文章表現基礎 I	1前		2		0								兼2	
		日本	文章表現基礎Ⅱ 日本語表現Ⅰ	1後 2·3·4前		2 2		0 0								兼2 兼5	
		語に	日本語表現Ⅱ	2・3・4後		2		0								兼6	
		関															
		する															
	ベー	科目															
	シッ		小計(4科目)	-	0	8	0		_		0	0	0	0	0	兼7	
	ツク	*44	文系のための基礎数学 I a 文系のための基礎数学 I b	1前 1後		2 2		0 0								兼2 兼2	
	科目	数的	文系のための基礎数字 II a	2・3・4前		2		0								兼1	
		思考	文系のための基礎数学Ⅱb	2・3・4後		2		0								兼1	
		に関															
		す															
		る 科															
総		目	小計 (4科目)	_	0	8	0		_		0	0	0	0	0	兼3	
合教			コンピュータ・リテラシー入門	1前	2				0						_	兼5	
育		コン	コンピュータ・リテラシー応用Ⅰ	1・2・3・4後		2			0							兼6 ***	
科目		ピ ユ	コンピュータ・リテラシー応用Ⅱ 情報リテラシー入門	1·2·3·4後 1·2·3·4前		2 2		0	0							兼2 兼1	
		 タ	情報リテラシー応用	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		科															
		Ш	小計 (5科目)	_	2	8	0		<u> </u>		0	0	0	0	0	兼11	
			英語コミュニケーションI	1前	2				0 0		2	2	2				
			英語コミュニケーションⅡ Business English Ⅰ	1後 2·3·4前	2	1			0		2	2	2				
			Business English II	2・3・4後		1			0				1				
			Academic English	2・3・4前		1			0		1		,				
			English & Culture Advanced English Ia	2·3·4後 2前		1			0				1 1				
		英 語	Advanced English I b	2後		1			0				1				
		PIT	Advanced English IIa	2前		1			0				1				
	語学		Advanced English IIb Advanced English IIIa	2後 3·4前		1			0				1 1				
	科		Advanced English IIIb	3・4後		1			0				1			兼1	
	目		Advanced English IVa	3・4前		1			0				1				
			Advanced English IVb 小計(14科目)	3·4後 —	4	1 12	0		O _		2	2	1 2	0	0	兼1	
			ドイツ語初級	1.2.3.4通	-1	2			0			۵	۷	,	,	兼3	
		·	フランス語初級	1・2・3・4通		2			0							兼3	
		選 択	スペイン語初級 イタリア語初級	1・2・3・4通		2			0							兼4 第 1	
		語学	中国語初級	1·2·3·4通 1·2·3·4通		2 2			0							兼1 兼6	
		7	朝鮮・韓国語初級	1・2・3・4通		2			0							兼3	
			海外語学研修	1・2・3・4前・後		2				0						兼3	

4				教 育 課	稻	Ē \$	等	の	概	要							
(⊐	₹.	ュニケー	ーション学部国際コミュニケーショ														
			ドイツ語中級 フランス語中級	2·3·4通 2·3·4通		2 2			0							兼1 兼1	
1	語	選	スペイン語中級	2・3・4通		2			0							兼1	
7	学科	択	イタリア語中級	2・3・4通		2			0							兼1	
	科目	語学	中国語中級	2・3・4通		2			0							兼2	
1	Ħ	子	朝鮮・韓国語中級	2・3・4通		2			0							兼1	
			小計 (13科目)		0	26	0		_		0	0	0	0	0	兼22	
			スポーツA	1・2・3・4前・後		1				0						兼5	
		ス	スポーツB	1・2・3・4前・後		1				0						兼5	
		ポー	スポーツC	2・3・4前・後		1				0						兼2	
		ツ															
		科 目															
		H	小計(3科目)	_	0	3	0		_		0	0	0	0	0	兼8	
			教養入門	1前		2		0								兼6	オムニハ゛ス
			現代社会の基礎知識	1前・後		2		0								兼2	
			哲学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			哲学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			論理学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			論理学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			倫理学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			倫理学b 社会思想a	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			社会思想b	1·2·3·4前 1·2·3·4後		2 2		0								兼1 兼1	
			祖去心心 現代社会と宗教a	1・2・3・4版		2		0								兼1	
			現代社会と宗教b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			文化人類学a	1・2・3・4前		2		0				1				兼1	
			文化人類学b	1.2.3.4後		2		0				1				兼1	
			言語学a	1・2・3・4前		2		Ō								兼1	
			言語学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
総			カルチュラル・スタディーズa	1・2・3・4前		2		0				1					
合教			カルチュラル・スタディーズb	1・2・3・4後		2		0				1					
育			生命の科学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
科			生命の科学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
目			地球の科学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			地球の科学は	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		教	環境の科学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		養	環境の科学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		講義	自然の構造a 自然の構造b	1·2·3·4前 1·2·3·4後		2 2		0								兼1 兼1	
		科目	自然地理学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		目	自然地理学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			数理の科学Ia	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			数理の科学Ib	1・2・3・4後		2		Ō								兼1	
			数理の科学Ⅱa	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			数理の科学Ⅱb	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			歴史で知る東京経済大学	1・2・3・4前・後		2		0								兼1	
			日本史Ia	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			日本史 I b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			日本史Ⅱa	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			日本史Ⅱb	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			外国史Ia	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			外国史Ib	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			外国史Ⅱa	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			外国史Ⅱb	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			人文地理学a	1・2・3・4前		2		0								兼1 兼1	
			人文地理学b 世界の地域と文化a	1・2・3・4後		2 2		0								兼1 兼1	
			世界の地域と文化b	1·2·3·4前 1·2·3·4後		2		0								兼1 兼1	
			心理学a	1・2・3・4後		2		0								兼2	
			心理学b	1・2・3・4後		2		0								兼2	
			精神の科学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			精神の科学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
			教育学a	1・2・3・4前		2		0			1					兼1	

4	1		教 育 訳	果科	星 4	等	の	概	要							
(=	1ミュニケ-	ーション学部国際コミュニケーシ	ョン学科)													
		教育学b	1.2.3.4後		2	1	0								兼1	
		健康の科学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		健康の科学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		スポーツの科学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		スポーツの科学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		芸術学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		芸術学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		日本文学Ia	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		日本文学 I b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		日本文学Ⅱa	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		日本文学Ⅱb	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		外国文学Ia	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		外国文学Ib	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		外国文学Ⅱa	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		外国文学Ⅱb	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		メディア表現a	1・2・3・4前		2		0			1						
		メディア表現b	1・2・3・4後		2		0			1						
		コミュニケーション論a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		コミュニケーション論b	1.2.3.4後		2		Ō								兼1	
		異文化コミュニケーションa	1・2・3・4前		2	1	0			1	1				兼1	
	教	異文化コミュニケーションb	1・2・3・4後		2		O								兼1	
	養講	政治学a	1・2・3・4前		2	1	0			1	1				兼1	
	義	政治学b	1.2.3.4後		2		0								兼1	
	科	社会学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
	目	社会学b	1・2・3・4削		2		0								兼1	
		法学			2											
			1・2・3・4前				0								兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4後		2		0								兼2	
		人権論a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		人権論b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
総		世界政治論a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
総合教		世界政治論b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
教育		ジェンダー論a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
科		ジェンダー論b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
目		情報社会論a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		情報社会論b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		都市と市民a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		都市と市民b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		平和学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		平和学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		福祉論a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		福祉論b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		経営学a	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		経営学b	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		小計 (93科目)		0	186	0	t	_		1	2	0	0	0	兼46	
		教養ゼミ	1後	1	2	1	1	0		1	1	1	1		兼10	
	教	総合教育ワークショップ	1・2・3・4前・後	È	2			0							兼13	
	養	英語で学ぶ教養	1・2・3・4前・後		2			0							兼4	
	演	総合教育演習	2・3・4通		4			0							兼29	
	習科	総合教育研究	4通		4			0							兼29	
	目	100 L 40 F 91 / L	1,00		1										AKEO	
	-	小計 (5科目)	_	0	14	0	-	_		0	0	0	0	0	兼30	
		日本語基礎セミナーIa	1前	0	2	9	1	0			-	J	J	, ,	兼1	
		日本語基礎セミナーIb	1後		2			0							兼1	
	留	日本語基礎セミナーIIa	2・3・4前		2			0							兼1	
	学 生	日本語基礎セミナーII b	2・3・4後		2	1		0		1	1				兼1	
	生向	日本語基礎セミナーⅢa	2・3・4版		2	1		0		1	1				兼1	
	け	日本語基礎セミナーⅢb	2・3・4削		2			0							兼1	
	ベ	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *				1				1	1					
	シ	日本語基礎セミナーIVa	3・4前		2	1		0		1	1				兼1	
	シッ	日本語基礎セミナーIVb	3・4後		2	1		0		1	1				兼1	
	ク															
	科		1		1	1				1	1					
	目															
		小計(8科目)	_	0	16	0		_		0	0	0	0	0	兼3	
			_													

4	4		:	教育	課	程	<u> </u>	手	の	概	要							
(=	⊐ ≷ :	ュニケ-	ーション学部国際コミュニケーショ	ン学科)														
			アカデミック・コンパス	1前			2		0				1					
			キャリアデザイン入門	1後			2		0				1					
			キャリアデザイン発展	2・3前			2		0					1			26.4	
244		キ	職業選択とキャリア形成	2.3.46			2		0								兼1	
進一		ヤ	ジェンダーとキャリア形成 雇用の変化とキャリア形成	2・3・4億 2・3・4億			2 2		0								兼1 兼1	
層		リ ア	インターンシップ	2・3・4前			2			0	*						兼1	※実習
科目		科	経済記事の読み方	2・3・4前			2		0		^						兼1	<i>м</i> Д
		目	企業・業界分析	2・3・4前・			2		0								兼2	
			キャリア基礎講座 (数的処理)	2・3・4行	-		2		0								兼1	
			キャリア基礎講座 (文章表現)	3・4前・	後		2		0					1				
			小計 (11科目)	-		0	22	0		_		0	2	1			兼6	
			コミュニケーション学入門	1前			2		0								兼1	
			社会調査入門	1.2.3.4	後		2		0								兼1	
			社会心理学	1.2.3.4	-		2		0								兼1	
			メディアリテラシー	1.2.3.4			2		0			1						
			コミュニケーション心理学	2・3・4後			2		0								兼1	
		講	現代言語学	2・3・4前			2		0			1						
		義	現代メディア史 比較メディア史	2·3·4育 2·3·4卷			2 2		0				1	,				
		科	ロンピュータコミュニケーション	2・3・4官			2		0					1			兼1	
		目	広告論	2・3・4前			2		0								兼1	
			プレゼンテーション論	2・3・4前・			2		0								兼1	
			アート論	2.3.4%	-		2		0								兼1	
			地域文化論	2・3・4前			2		0			1					71102	
			映像文化論	2・3・4前	ń		2		0								兼1	
			小計 (14科目)	-		0	28	0		_	ı	2	1	1	0	0	兼8	
			フレッシャーズ・セミナーa	1前			2			0		4	4	1			兼7	
		演	フレッシャーズ・セミナーb	1後			2			0			2				兼2	オムニハ゛ス
		習科	演習	2·3·4j	重		4			0		4	6	2			兼10	
		目	卒業研究	4通		8				0		4	6	2			兼10	
			小計(4科目)	-		8	8	0		_		4	6	2	0	0	兼10	
			コミュニケーションワークショップ	1後			2	0		0		- 0	0	1	0	_	兼2	
			小計(1科目) 身体表現ワークショップ	2・3・4前・	. 44.	0	2	0		-	1	0	0	1	0	0	兼2 兼2	
			メディアデザインワークショップ	2・3・4前	-		4			0		1		1			兼3	
学部		表現	日本語ワークショップ	2・3・4前			2			0		1		1			Mr.5	
共		系	表現と批評	2・3・4道			4			0		1						
通科			小計 (4科目)	-	_	0	14	0		_	l .	1	0	1	0	0	兼5	
目			社会調査ワークショップ 1	2・3・4前・	•後		2			0							兼1	
			社会調査ワークショップ 2	2・3・4前・	•後		2			0							兼1	
			社会調査ワークショップ 3	2・3・4前・	·後		2			0							兼1	
			社会調査ワークショップ 4	2・3・4前・	•後		2			0			1	1				
		調	社会分析ワークショップ	2・3・4前・	•後		2			0			1	1				
	ワ	查	社会調査実習	3・4通	!		4			0		1						
	ーク	系																
	シ																	
	ョッ																	
	プ																3/	
	科目		小計 (6科目)		ifr	0	14	0		_		1	2	2	0	0	兼3	
	П		English Workshop A1 (時事英語) English Workshop A2 (時事英語)	2・3・4前			2 2			0		I		1				
			English Workshop B1 (海外文化)	2・3・4億 2・3・4億			2			0		I		1 1				
			English Workshop B2 (海外文化)	2・3・4年			2			0		I		1				
			English Workshop C1 (日本文化)	2・3・4前			2			0		I		1			兼1	
		*	English Workshop C2 (日本文化)	2・3・4後			2			0		I					兼1	
		英語	English Workshop D1 (英日翻訳法)	2・3・4前			2			0		I		1			l "	
		系	English Workshop D2(日英翻訳法)	2・3・4後			2			0				1				
			English Workshop El (Academic Writing)	2・3・4前			2			0		I		1				
1			English Workshop E2 (Academic Writing)	2・3・4後	发		2			0			1					
			English Workshop F1 (Hospitality & Tourism)	2・3・4前	前		2			0							兼1	
			English Workshop F2 (Hospitality & Tourism)	2・3・4後	发		2			0							兼1	
			小計 (12科目)	-		0	24	0		_		0	1	2	0	0	兼2	

	4				教 育 詞	果和	呈 4	等	の	概	要							
(=] =	<u>_</u> =	<u>-</u> ケ-	ーション学部国際コミュニケーショ	ン学科)													
Ė				English Skills (R&W) I	1前		1			0		2	2					
				English Skills (R&W) II	1後		1			0		2	2					
				English Skills (R&W)Ⅲ	2前		1			0		2	2					
				English Skills (R&W)IV	2後		1			0		2	2					
				English Skills (S&L) I	2前		1			0		2	2	2				
				English Skills (S&L)Ⅱ	2後		1			0		2	2	2				
				Reading for Communication Studies	3前・後		2			0		2	1					
			S t	Digital Presentation in English	3前・後		2			0				2				
			u	異文化理解A	2・3・4前・後		1				0		4					
			d	異文化理解B	2・3・4休		1			0			1					
		1	У	Comprehensive English AI	2・3・4前		2			0				1				
		1	A	Comprehensive English AII	2・3・4後		2			0				1				
		ł	b	Comprehensive English BI	2・3・4前		2			0				1				
			r	Comprehensive English BII	2・3・4後		2			0				1				
			o a	Comprehensive English C I	2・3・4前		2			0			1					
1			d	Comprehensive English CII	2・3・4後		2			0			1					
		Ι.	n	Comprehensive English DI	2・3・4前		2			0				1				
1			B a	Comprehensive English DII	2・3・4後		2			0				1				l
			S	海外言語文化概論 I	2・3・4前		2			0			1					
			i	海外言語文化概論Ⅱ	2・3・4後		2			0			1					
			c s	海外言語文化事情 I	2・3・4前		2			0		1						
	玉			海外言語文化事情Ⅱ	2・3・4後		2			0		1						
	際			海外言語文化研究 I	2・3・4前		2			0		1						
	コ			海外言語文化研究Ⅱ	2・3・4前		2			0		1						
	<i>%</i> 1			海外言語文化研究Ⅲ	2・3・4後		2			0		1						
展	=			海外言語文化研究IV	2・3・4後		2			0		1						
開科	ケ			グローバルインターンシップ	2・3・4前		2			0	*	1		1				※実習
目	シ			小計 (27科目)	_	0	46	0		_		3	2	3	0	0		
	3			国際コミュニケーション基礎	1前		2		0					1				
	ン科			多文化社会で働く	2前		2		0				1					
	目			小計 (2科目)	-	0	4	0		_		<u> </u>	1	1	0	0		
			モビ	移動の生活学	2・3・4後		2		0					1				
			IJ	移動の社会学	2・3・4前		2		0				1					
			テ	移動の文化学	2·3·4後 —		2	_	0	_		 	1 2	1		0		<u> </u>
			1	小計 (3科目)		0	6	0		_				1	0	0		
			グ	メディア文化論	2・3・4前		2		0			١,	1					
			口	音楽文化論 スポーツ文化論	2・3・4後		2		0			1					₩ 1	
		2) (ーバ	観光文化論	2·3·4前 2·3·4前		2 2		0			١,					兼1	
		学科	ル	小計(4科目)	2.9.480	0	8	0	0			1 2	1	0	0	0	兼1	
		専		異文化マネジメント論	2・3・4後	0	2	U	0	1			1	0	U	0	煮1	
		門	+	ホスピタリティ産業論	2・3・4前		2		0				1				兼1	
		科目	ヤ	観光ビジネス論	2・3・4例		2		0			1					木1	
		Н	リフ	グローバルキャリア論	2・3・4板		2		0			1		1				
			r	小計 (4科目)	2·3·4fii	0	8	0			<u> </u>	1	1	1	0	0	兼1	
				英語学概論	2・3・4後		2	Ů	0			1	1	1	Ů	Ů	NV1	
				比較文化論	2・3・4後		2		0			1						
				英米文学	2・3・4前		2		0			1						
				英米文化論	2・3・4後		2		0			1						
				英語・文化論	2・3・4後		2		0			*	1					
				英文構成法	2・3・4前		2		0			1	1					
1				パブリック・スピーキング	2・3・4後		2		0				1					
1				小計 (7科目)	-	0	14	0	Ť	_		2	1	0	0	0		
				海外短期研修	1.2.3.4前.後		2				0	2	2					
		自由																
	疋	由		小計(1科目)	_	0	2	0		_		2	2	0	0	0		
				合計 (256科目)	_	14	492	0		_		5	6	5	0	0	兼109	
Щ				****	l .		1					<u> </u>						

4 教 育 課 程 等 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 文学関係 及び 学位又は称号 学士(コミュニケーション学) 学位又は学科の分野 社会学,社会福祉学関係 授業期間等 履 ・総合教育科目から30単位(うち必修「英語コミュニケーション I」2単位、「英語 1 学年の学期区分 2学期 コミュニケーションⅡ」2単位、「コンピュータ・リテラシー入門」2単位を含む。) を修得する。 ・進一層科目、学部共通科目、展開科目から70単位(うち進一層科目から6単位、必 修「卒業研究」8単位、展開科目のうち「異文化理解A」もしくは「異文化理解B」 1 学期の授業期間 15调 のいずれか1単位、展開科目のうち学科専門科目から20単位を含む。)を修得する。 ・各科目群の卒業必要単位数を超過した24単位以上を修得する。 ・合計124単位以上を修得する。 1時限の授業時間 90分 履修科目の登録の上限:48単位(年間)

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信 教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専 門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備 考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者 に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

5				授業	科	目	の	概	要		
(⊐	ミュニ	ケーシ	ョン学部国際コミュニ	ケーション学科	ļ)						
	科 l 区 ź		授業科目の名	称			講義等	等の内容			備考
			総合英語セミナーI	乗動ミカシす想に基コニーショ・定	礎カューションを カーションを でする でする でする でする でする でする でする でする でする でする	点的に強 ーシの前提 や自分るこ そ しの な と は な と は る と は る と る ら る ら る ら る ら る と る ら る と る ら る と ら る ら る	化すること 活動なる とれる とれる とれる とれる とれる とれる とれる とれる とれる とれ	とを目指に語を身にいいる。 を表現しいである。 を表し、 する。 英	し、問題 い講義 いっ は は は は は る に る で る で る で る で る で る で る で る で る で	と演奏を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	
			総合英語セミナーⅡ	確習を る的 間 を記する の 間	な 解。に 集る 英 は 数 数 き る 、 で る 、 で る 、 き る 、 き る き も も も も も も も も も も も も も も も も も	語彙の基 コン文目を 現りを現む・ 表記・	避力を担かを かかを を と を と し し し の る の る り り り り り り り り り り り り り り り り	に強化すな とった に強な に活動れ にった にった にった にった にった にった にった にった にった にった	るど実をしたとをいるとなりとをあるとなりのというできませい。	ケーションの基 目指し、問題演 組む講義と実技 場面で可欠なを に不いた合かせ TOEIC Bridgeス 級者用の授業を	
総	ベー	英語	総合英語セミナーII	破 語取 ニ 用 必 す 半 が と 乗 組 ー きな 誘	る習むシる力む・法長義ンう身書	語就実必なつ」 ・ を動行文とこる はの4 はの4 はの4 はの4 はの4 はの4 はの4 はの4	定、う法やと指うを、う法やとをできる。とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	、更に伸いない。 ないなり内でで扱う内を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ばすため ニケーマ ないと ないに ここ Brid	ケーションの基 にョンの表 にョンにまない。 シス活動といるでは、 実際のを取るでは、 得点せ「コアがおよ でのでいま でのでいます。 でいます。 でいる。 でいます。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる	
合教育科目	・シック科目	に関する科目	総合英語セミナーⅣ	礎 無的実語で読む を対学の まい際 いきむ・ 読む	る習ん場っよ書文、で面ニうによりでですにします。	語歳 講義でョこ技能 を動実るにをを もなりまする。 は は は は は は り に り る り に り る り に り る り に り る り る り に り る り る	定、技よ必目学者実をう要標習でととする。	、更に伸いなコミュー。 をコミューででいる。 ることにいる れる語彙・ 、 TOEIC I	ばすため ないないないないないないないできませい。 ないではないできませい。 ないではないできませいできませい。 ないではないできませいできませい。	ケーションの基 にョンマンの選、 コンマンの習い をマンスター度と はいる で、現では、 で、現では、 で、現では、 で、現では、 で、現では、 で、現では、 で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	
			TOEIC I	におけ 英 ま ま ま れ 、 ・ ま れ 、 ・ ま れ の 更 に あ る 。	る得点の 語で的な対が がれる でれる がれる がながれる がながれる がない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	向上を目 ュニケケえ あ方法を が しこが き が は で た に に に 深 が と に が に が に が に に い に い に い に い に い ら に い ら い ら に い ら い ら	指すことがる理でとがる理能したといる 理能力としたといる I, IIIの	を目標と 取繋がう向、 関係こい、 でさき 関係できます	する。でとく で で で で で が で で で で で で で で り く 、 で で う く く 、 で う く く く た く た く た く た く た く た く た く た く	されているTOEIC の学びを通し ネスなどで実用 Cというテストの 聴解力・読解力 また、TOEICの問 提示することも のTOEIC Iが初級	
			TOEIC II	にて的形の題ある。	る得点のミ 語で的な対象 はだれのる 連すな、TO	向上を目 ュニケ使え あ方法を が しこ が き が き い た に に に に に に に が と い に い に い に い に い に い に い に い ら に い ら に い ら に い ら に い ら に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	指シる理てる ニ すっこ解能たとした はたいにた は、 は は に は に に に に に に に に に に に に に た に に た に に た に に た に に た に に の に の	を目標と取り、取り、ででででできばい、、せずのでは、はずい、はずい、はずい。	する、TOEI と、TOEI まかく かく で で で で で で で で で で で の に の た の に の た の た の た る た る た る た る た る た る た る た	されているTOEIC の学びを通し ネスなどで実用 Cというテストの 聴解力・読解力 また、TOEICの問 提示することも のTOEIC IIが中	

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 英語能力を測る指標のひとつとして社会的に認知されているTOEICにおける得点の向上を目指すことを目標とする。その学びを通し TOEIC III て、英語でコミュニケーションが取れること、ビジネスなどで実用的・実践的な英語が使えることに繋げていく。TOEICというテストの形式およりが対策の大学と理解します。 語 TOEICというテストの 形式および対策の方法を理解したうえで、語彙力・聴解力・読解力 関 のそれぞれの部門において能力を向上させていく。また、TOEICの問 す 題に関連する知識を深めるために、関係する資料を提示することも る ある。なお、TOEIC I, II, IIIの授業の違いは、このTOEIC IIIが中級~上級レベルを対象としているということである。 科 Ħ 日本語で「文章の内容を正確に理解し、要約して伝える力」や 「論理的な文章を書く力」は全ての学習活動の基礎となる能力だ 文章表現基礎 I が、近年これらの能力に自信のない学生が増えている。 この科目 は、日本語の読解、文章作成などに苦手意識の強い学生を対象と ことばの知識を増やす課題や文章を書く課題などに、学生自身 が主体的に取り組む授業形態でおこなう。また、この科目では「日本語検定3級」の資格取得を目指す。ことばの基礎知識を学び、文 章表現に対する苦手意識を克服するための科目である。 日本語で「文章の内容を正確に理解し、要約して伝える力」や 文章表現基礎Ⅱ 「論理的な文章を書く力」は全ての学習活動の基礎となる能力だ が、近年これらの能力に自信のない学生が増えている。 この科目 は、日本語の読解、文章作成などに苦手意識の強い学生を対象と ことばの知識を増やす課題や文章を書く課題などに、学生自身 H が主体的に取り組む授業形態でおこなう。この科目では、「文章読解・作成能力検定(略称:文章検)3級」相当の文章力を習得するこ 本 語 とを目指して学び、文章表現に対する苦手意識を克服するための科 目である。 関 Ì す 合教 シ る 日本語表現 I 「書くこと」「話すこと」の演習を通じて、 ツ 科 育 内容をしっかり把握する方法、レポート・論文等の作成に適した論 ク 理的な文章の書き方、「コミュニケーション」を円滑にするための 「喋り方」などを学ぶ、第一学期に開講する授業である。わかりや 科 科 目 目 すい日本語を書く技術を習得することは、大学での授業のみならず 社会に出てからの活動を支える基礎である。また、 「話す」 プレゼンテーションの根本である。表現力の向上と思考法を鍛える 教養科目である。 日本語表現Ⅱ 「読むこと」「書くこと」「話すこと」の演習を通じて、書物の 内容をしっかり把握する方法、レポート・論文等の作成に適した論 理的な文章の書き方、「コミュニケーション」を円滑にするための 「喋り方」などを学ぶ、第二学期に開講する授業である。わかりやすい日本語を書く技術を習得することは、大学での授業のみならず 社会に出てからの活動を支える基礎である。また、 「話す」ことは プレゼンテーションの根本である。表現力の向上と思考法を鍛える 教養科目である。 文系のための基礎数学Ia 中学校レベルから高校1年生レベルの数学を題材にして、基本的 な数的処理能力を試す問題あるいは推論・判断に基づく問題に対す る解法を学ぶ授業である。取り上げる項目は、四則演算、方程式 (一次方程式・二次方程式・連立方程式),不等式,関数,割合, 数 比率などで、実社会に基づく問題を中心に解説する。 これらの問題 的 を通して実社会で求められる計算能力および論理的思考を育成する 思考 ことがこの授業の目標である。この授業は座学を中心とした講義科 に 関 中学校レベルから高校1年生レベルの数学を題材にして 文系のための基礎数学Ib な数的処理能力を試す問題あるいは推論・判断に基づく問題に対す す る解法を学ぶ授業である。取り上げる項目は、順列・組合せ、確 る 科 率,集合,命題と論理,距離・時間・速度,運動力学,図形問題な 実社会に基づく問題を中心に解説する。 これらの問題を通し 目 て実社会で求められる計算能力および論理的思考を育成することが この授業の目標である。この授業は座学を中心とした講義科目であ

5 授 業 科 目 ഗ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 文系のための基礎数学Ⅱa 高校1年生レベルの数学から就職試験や資格・検定試験等の問題 を題材にして、基本的な数的処理能力を試す問題あるいは推論・判 断に基づく問題に対する解法を学ぶ授業である。取り上げる項目 年齢算, 仕事算, 通過算, 流水算, 損益算, 理科の問題など 実社会に基づく問題を中心に解説する。これらの問題を通して 実社会で求められる計算能力および論理的思考を育成することがこ 的 の授業の目標である。この授業は座学を中心とした講義科目であ 思 る。 考 ľ 関す 文系のための基礎数学Ⅱb 高校1年生レベルの数学から就職試験や資格・検定試験等の問題 を題材にして、基本的な数的処理能力を試す問題あるいは推論・判 断に基づく問題に対する解法を学ぶ授業である。取り上げる項目は、推論、数列、アルゴリズム、PERT、表・資料解釈、図形の面積・体積・展開図、グラフの領域などで、実社会に基づく問題を中 る 科 心に解説する。これらの問題を通して実社会で求められる計算能力 および論理的思考を育成することがこの授業の目標である。この授 業は座学を中心とした講義科目である。 コンピュータ・リテラシー この授業では、Windows対応のパソコンを利用して、パソコンの基 入門 本的な操作方法と、インターネット、電子メール、文書作成ソフ ト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作方法に 「情報倫理」を統一テーマとして取り上げながら学習す る。具体的には、まず、Windowsの基本操作、並びに、学内ネットワークについて学習する。次に、文書作成ソフトWordでは、文書の 文書の 各種書式や体裁の設定方法、表の作成方法などについて学習する。 その後、ブラウザを用いたWebページへのアクセスと、ネット時代に 必要なエチケット・心構え・留意事項、ブラウザ上で電子メールを 作成・送信・受信できるWebメールの操作方法について学習する。そして、表計算ソフトExcelでは、ワークシートの操作方法、データや 合 数式の入力方法などについて学習する。最後に、プレゼンテーショ 教 ツ ンソフトPowerPointでは、基本的な操作方法とプレゼンテーション 育 ク 科 で気を付けるべき点などについて学習する。 科 目 目 コンピュータ・リテラシー この授業は,コンピュータ・リテラシー入門で学んだことを基礎 応用I として、表計算ソフト Excelの基本的な操作方法、それに統計処理 によるデータ分析方法やグラフ作成方法などを習得するために、 データサイエンスに関する基礎的な講義と実習を行う。具体的に ピ ユ 1 タ 操作として、クロス集計表 (分割表) の作成方法やマクロの利用方法についても取り上げる。さらに、こうしたデータ分析の結果を 科 Ħ WordファイルやPowerPointスライドに貼り付けたり、リンクさせる ことができるようにする。 コンピュータ・リテラシー 営業活動の報告、新サービスや新製品の紹介、研究成果や調査結 果の発表など、今日の社会では、あらゆる場面でプレゼンテーショ ン能力が要求されている。また、ゼミやインターンシップでの成果 応用Ⅱ 報告、就職活動などで行われる自己PRなど、大学生活においても同 様である。プレゼンテーションを成功させるためには、その目的を 明確にした上で、話す内容(ストーリー)を整理し組立てて、収集 したデータから効果的な図表を作成し、内容を正確に伝えるために 的確な語句を用いて、視覚資料と配布資料を準備し、聞き手の立場に立って発表することが重要である。そこで、この授業では、プレゼンテーションで広く利用されているソフトウェア PowerPointの操 作方法を学習した上で、プレゼンテーション全般についての知識を 学び、各自のテーマに沿ってスライドや配布資料を作成し、実際に プレゼンテーションを体験することで、プレゼンテーション技術を 身につけることを目的とする。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 高度情報化社会では情報通信技術(ICT)は社会基盤である。本講義ではこのICTについて様々な角度から学ぶ。まずは、ICT活用の端緒となる問題解決に必要な情報リテラシーについて解説する。続い 情報リテラシー入門 て、ICTを利用する組織でのコンピュータの利用形態並びに経営情報 システムについて触れる。そして、電子マネーや電子商取引などが 使われる流通分野と、先進的ロボット群が活躍する製造分野、にお ける情報システムについてそれぞれ解説する。さらに、身近な生活 を支える電子政府や携帯情報端末、様々な分野で活躍する人工知 能、機密情報の取り扱いで重要なセキュリティ技術、ネット社会の 情報発信としてのSNS (Social Networking Service) について触れ る。最後に、情報発信としての表現の自由、情報利用に関わる人格 的利益や知的財産政策そして社会秩序維持のための法的枠組みを解 Ľ 説し情報倫理について学習する。 ユ ッ 1 情報リテラシー応用 情報通信技術(ICT)の進展に伴い、現代社会が求める高付加価値 カ タ の仕事をするにはコンピュータの活用が必須である。そこで、本講 科 科 義では、コンピュータの基礎知識として、論理演算の仕組み、入出 力装置、記憶装置、インターフェースなどハードウェアと、オペ 目 レーティングシステム (OS) やプログラム言語、各種の応用ソフト ウェア、人工知能などソフトウェアについて学習する。続いて、コンピュータ間のデータ通信を実現する通信ネットワークの技術と サービスについて触れる。その後、高付加価値の問題解決で利用される統計的アプローチやシステム思考、そして問題の構造化とモデ ル化とシミュレーションについて解説する。最後に、コンピュータ を含んだ総合技術であるロボットの利活用のために、各種センサー 技術、アナログとデジタル間のデータ変換技術、ロボットのプログ ラム制御について解説する。 習熟度別にクラスを編成し、聞くこと・話すことを中心とした英 語のコミュニケーション能力を向上させることがこの授業の主たる 英語コミュニケーションI 合 目的である。学生と教師の会話だけでなく、ペアワーク・グループワークなどを通じて、スピーキングを実践し、能力を向上させてい 教 育 学生が緊張することなく積極的に英語を話すことができるよう 科 になることを目指す。また、聞く・話すにとどまらず、語彙力を増 やしたり、文法その他の知識を定着させたりすることも意識した授 目 業をおこなう。加えて、定期的に、個々の学生の語彙力、リスニング能力、スピーキング能力を確認する。 英語コミュニケーションⅡ 「英語コミュニケーションI」で学んだことを基盤とし、 コミュニケーション能力を更に高めていく。習熟度別にクラスを編成し、聞くこと・話すことを中心とした英語のコミュニケーション能力を向上させることがこの授業の主たる目的である。学生と教師 の会話だけでなく、ペアワーク・グループワークなどを通じて、スピーキングを実践し、能力を向上させていく。学生が緊張すること 語 なく積極的に英語を話すことができるようになることを目指す。 学 茁 た、聞く・話すにとどまらず、語彙力を増やしたり、文法その他の 知識を定着させたりすることも意識した授業をおこなう。加えて、 科 語 Ħ 定期的に、個々の学生の語彙力、リスニング能力、スピーキング能 力を確認する。 この授業では、英語を使って仕事をする際に必要なビジネス英語 の基礎を学ぶ。具体的には、①想定される状況別のビジネス英会 Business English I 話、②英語での電話の受け答え、③英語の基本的なemailの書き方、 ④英文履歴書の書き方、⑤英語での面接といった内容を中心に学 る。 授業ではペア・ワーク、グループ・ワークなどを通じて、聞く・話すを中心に読み書きについても総合的に学ぶ。 特にこの授業は、海外での就業体験(「グローバル・インターン シップ」)に参加した際、あるいは就職後に海外に派遣された際 現地で困らない程度の仕事で使える英語力を身につけることを 目指す。授業は基本的に全て英語で行うこととし、授業時間内の日 本語の使用は認めない。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業では、英語を使って仕事をする場合に必要なビジネス英語を学ぶ。具体的には、①想定される状況別のビジネス英会話、② Business English II 英文履歴書の書き方、③英語での面接、④英語でのemailの書き方、 ⑤英文の契約書の書き方(と読み方)といった内容を中心に学ぶ 授業ではペア・ワークやグループ・ワークも取り入れながら実践的 なビジネス英語を総合的に学ぶ 特にこの授業は、海外での就業体験(「グローバル・インターン シップ」) に参加した際、あるいは就職後に海外に派遣された際 に、仕事で使える英語力を身につけることを目指す。授業は基本的 に全て英語で行うこととし、授業時間内の日本語の使用は認めな この授業では、海外に留学して英語で授業を受ける際に必要な英 Academic English 語の基礎力を養うことを目指す。具体的には、①英語で講義を聞いておおむね理解できるだけの聞き取りとノート・テイキングの方法、②英文を読んでまとめる際のノート・テイキングの方法、③特 具体的には、①英語で講義を聞い 定のトピックについて英語で発表またはディスカッションの基本、 ④英文レポートの書き方の基本について、特定のトピックを取り上 げながら学ぶ。在学中に交換留学などで海外の大学で学ぶことを希望しているが、自信のない学生を対象に、英語で学ぶための基礎を 身につけられるようにする。 English & Curture この授業では、さまざまな国の社会や文化について英語で学び考 この反乗では、さまさまな国い社会で入口に「シャンスロートラップ えることで、総合的な英語力の向上を目指す。授業では、特定のトピックについて調べたことについて英語で説明する、あるいは英語で議論することによって、英語で発表・議論する力を養う。また、授業ではグループ・ワークを過して、社会を大いに よる考え方の違いや、文化的背景の異なる人とのコミュニケーショ ンのあり方等について、様々な視点から考える。この授業での使用 言語は英語のみとし、英語で学び、考えるために必要な力を総合的 語 教 学 育 科 科 Ħ Advanced English Ia 英語の実習科目として、高度なリーディング・ライティング力を Ħ 育成するため、少人数の授業を行う。また、英語の実用面にとどま らず、現代のグローバル社会において他者と英語による自律的なコ ミュニケーションを図る能力を養うことを目標とし、国際的な教養 の育成を目指す。なお、この科目は2年次生を対象とし、リスニング・スピーキングカの育成を言としたAdvanced English IIaとの同じに関係する。 時履修を義務付ける。二つの科目の同時履修を義務付けることによ り、4技能のバランスがとれた英語能力の育成を目指す。 Advanced English Ib Advanced English Iaから継続して履修する後期科目として Rational Ling Its In Table State Laborate Labo 二つの科目の同時履修を行うことにより、4技能のバランスがと れた英語能力の育成を目指す。 Advanced English IIa 英語の実習科目として、高度なリスニング・スピーキング力を育 成するため、英語ネイティブスピーカーによる少人数の授業を行 成するため、央語イイアイノ人に一ルーによる少人数の収表を11 う。英語の基礎的な語彙・文法を扱いながら、海外での生活において自力で対応できる語学力の育成を目指す。また、毎回の授業では 場面に応じたロールプレイなど、実践的で活発なアクティビティー を行うことで、学生の主体的な授業への参加を促進する。なお、この科目は2年次生を対象とし、リーディング・フィングナの育 成を主としたAdvanced English Iaとの同時履修を義務付ける。 の科目の同時履修を行うことにより、4技能のバランスがとれた英語 能力の育成を目指す。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 Advanced English IIaから継続して履修する後期科目として、英 Advanced English IIb 語のリスニング・スピーキング力を育成するため、英語ネイティブ スピーカーによる少人数の授業を行う。Advanced English llaに引 き続き、毎回の授業ではディスカッションなど、実践的で活発なアクティビティーを行うことで、学生のさらなる主体的な授業への参加を促進する。なお、この科目の履修者は、リーディング・ライ ティング力の育成を主としたAdvanced English Ibとの同時履修を義 務付ける。 二つの科目の同時履修を行うことにより、4技能のバラン スがとれた英語能力の育成を目指す。 英語の実習科目として、国際的に活躍できる人材の育成を目指し、英語による高度なリーディング・ライティング力を育成するため、少人数の授業を行う。この際、国際社会の諸問題をテーマとし Advanced English IIIa た教材を選定し、それらの問題について多角的視野に立って自らの 考えを発信する能力を育成することを目指す。なお、この科目は3 年次生・4年次生を対象とし、リスニング・スピーキングを主とし たAdvanced English IVaとの同時履修を義務付ける。 同時履修を行うことにより、4技能のバランスがとれた英語能力の育 成を目指す Advanced English **Ⅲ**b Advanced English IIIaから継続して履修する後期科目として、国 際的に活躍できる人材の育成を目指し、英語による更に高度なリー ディング・ライティング力を育成するため、少人数の授業を行う。 また、Advanced English IIIaと同様に、国際社会の諸問題をテーマとした教材を選定し、それらの問題について多角的視野に立って 本 他者と意見を交換できる能力を育成することを目指す。なお、この 科目は3年次生・4年次生を対象とし、リスニング・スピーキング 語 を主としたAdvanced English IVbとの同時履修を義務付ける。 の科目の同時履修を行うことにより、4技能のバランスがとれた英語 能力の育成を目指す。 英語の実習科目として、国際的に活躍できる人材の育成を目指し、英語のリスニング・スピーキング力を育成するため、英語ネイティブスピーカーによる少人数の授業を行う。学生同士の英語によ 合教育科 語 Advanced English IVa 学 科 るディスカッションなど、実践的なアクティビティーを行うことで 目 目 学生の主体的な授業への参加を促進する。なお、この科目は3年次 字生の主体FJなtx未、シングルFで ICAE 、る。 るって、 生・4年次生を対象とし、リーディング・ライティングを主とした Advanced English IIIaとの同時履修を義務付ける。二つの科目の同 時履修を行うことにより、4技能のバランスがとれた英語能力の育成 を目指す。 Advanced English IVaから継続して履修する後期科目として、国際的に活躍できる人材の育成を目指し、英語のリスニング・スピーキング力を育成するため、英語ネイティブスピーカーによる少人数の授業を行う。学生同士が率先して意見を交換するディスカッショ Advanced English IVb ンなど、実践的で活発なアクティビティーを行うことで学生のさら なる主体的な授業への参加を促進する。なお、この科目は3年次生・ 同時履修を行うことにより、4技能のバランスがとれた英語能力の育 成を目指す。 1年次から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを ドイツ語初級 ドイツ語の入門授業を行う。教員によ 目指す選択語学科目の一つ。 る解説および練習問題の実践等を通じて、ドイツ語の初級文法を学 さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実 践的な会話力を高めることを目指す。また、当該言語が話されてい る地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文化理 選 解の機会とする。 択 語 フランス語初級 1年次から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを 学 目指す選択語学科目の一つ。フランス語の入門授業を行う。教員に よる解説および練習問題の実践等を通じて、フランス語の初級文法 を学ぶ。さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実践的な会話力を高めることを目指す。また、当該言語が話さ れている地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異 文化理解の機会とする。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 1年次から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを 目指す選択語学科目の一つ。スペイン語の入門授業を行う。教員に スペイン語初級 よる解説および練習問題の実践等を通じて、スペイン語の初級文法 を学ぶ。さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行 い、実践的な会話力を高めることを目指す。また、当該言語が話さ れている地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異 文化理解の機会とする。 1年次から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを 目指す選択語学科目の一つ。イタリア語の入門授業を行う。教員に イタリア語初級 よる解説および練習問題の実践等を通じて、イタリア語の初級文法 を学ぶ。さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行 い、実践的な会話力を高めることを目指す。また、 当該言語が話さ れている地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異 文化理解の機会とする。 1年次から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを 目指す選択語学科目の一つ。中国語の入門授業を行う。教員による 中国語初級 解説および練習問題の実践等を通じて、中国語の初級文法を学ぶ さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実践的 な会話力を高めることを目指す。また、当該言語が話されている地 域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文化理解の 機会とする。 1年次から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを 目指す選択語学科目の一つ。朝鮮・韓国語の入門授業を行う。教員 朝鮮・韓国語初級 による解説および練習問題の実践等を通じて、朝鮮・韓国語の初級 文法を学ぶ。さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に 行い、実践的な会話力を高めることを目指す。また、 当該言語が話 されている地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、 異文化理解の機会とする。 語 海外語学研修 1年から4年次まで履修可能な、外国語運用能力を高めることを目 教 学 択 指す選択語学科目の一つ。「東京経済大学短期学生海外語学研修に 育 科 語 関する規程」に基づき、国際交流委員会が企画、海外における語学 科 目 研修および国内における事前・事後研修を行う。外国語運用能力を H 高めるとともに、研修国の社会、文化、歴史を通じた異文化理解の 機会とする。 初級単位を修得した者が履修可能な、外国語運用能力を高めることを目指す選択語学科目の一つ。ドイツ語の中級者向け授業を行 ドイツ語中級 教員による解説および練習問題の実践等を通じて、ドイツ語の 高度な文法を学びつつ、まとまった文章を読解する能力を高める。 さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実践的な会話力のさらなる向上を目指す。また、当該言語が話されている地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文化理解 の機会とする。 フランス語中級 初級単位を修得した者が履修可能な、外国語運用能力を高めるこ フランス語の習熟者向け授業を行 とを目指す選択語学科目の一つ。 教員による解説および練習問題の実践等を通じて、 フランス語 の高度な文法を学びつつ、まとまった文章を読解する能力を高め さらに、学んだ文法事項を用いて会話練習するグループワーク も積極的に行い、実践的な会話力を向上させることを目指す。ま 当該言語が話されている地域の社会、文化、歴史に関する知識 も教員が提供し、異文化理解の機会とする。 スペイン語中級 初級単位を修得した者が履修可能な、外国語運用能力を高める とを目指す選択語学科目の一つ。スペイン語の中級者向け授業を行 う。教員による解説および練習問題の実践等を通じて、スペイン語 の高度な文法を学びつつ、まとまった文章を読解する能力を高め さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実 践的な会話力のさらなる向上を目指す。また、当該言語が話されて いる地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文化 理解の機会とする。

5 授 業 科 目 ഗ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 初級単位を修得した者が履修可能な、外国語運用能力を高めることを目指す選択語学科目の一つ。イタリア語の中級者向け授業を行 イタリア語中級 う。教員による解説および練習問題の実践等を通じて、イタリア語 の高度な文法を学びつつ、まとまった文章を読解する能力を高め さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実 践的な会話力のさらなる向上を目指す。また、当該言語が話されて いる地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文化 理解の機会とする。 中国語中級 初級単位を修得した者が履修可能な、外国語運用能力を高めるこ とを目指す選択語学科目の一つ。中国語の中級者向け授業を行う 教員による解説および練習問題の実践等を通じて、中国語の高度な 語 選 文法を学びつつ、まとまった文章を読解する能力を高める。さら 学 択 に、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、実践的な会 話力のさらなる向上を目指す。また、当該言語が話されている地域 の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文化理解の機 科 語 会とする。 朝鮮・韓国語中級 初級単位を修得した者が履修可能な、外国語運用能力を高めるこ とを目指す選択語学科目の一つ。朝鮮・韓国語の中級者向け授業を 行う。教員による解説および練習問題の実践等を通じて、朝鮮・韓 国語の高度な文法を学びつつ、まとまった文章を読解する能力を高 める。さらに、学んだ文法事項を用いた会話練習も積極的に行い、 実践的な会話力のさらなる向上を目指す。また、当該言語が話され ている地域の社会、文化、歴史に関する知識も教員が提供し、異文 化理解の機会とする。 チームスポーツを主教材として、技術の習得、仲間との協力を通して、適切な身体活動の必要性を認識させる。そして、生涯を健康的で豊かに過ごすために必要な基礎体力を身につけることに加えて、健康維持に必要な知識と実践力、さらに他者とコミュニケー スポーツA 総 合 教 育 科 ションをとりながら楽しむことを学ばせることを目的としている。 目 スポーツB スポーツ実践を通して、適切な身体活動の必要性を認識させ、よ ポ り健康的で豊かな学生生活を送るための能力や態度を育成する。 1 定のスポーツ種目(個人種目)の技術向上を図るとともに、歴史、 w 文化、ルール、戦術・技術論を統合的に学ぶ。また、仲間との競争 科 を通して、技術の向上、創意工夫する力、自分自身のプレー ルの確立を図る。 スポーツの実践を通して、健康で豊かな生活を送っていくために 必要な知識と実践力を短期間、集中的に学ぶ科目である。スポーツ スポーツC を教材として歴史、文化、ルール、戦術・技術論を学びながら技 術、体力の向上を図る。 「教養」は大学での学習の基礎であるだけでなく、自律的で自由 な人格を形成するための土台でもある。この講義では、いま求めら 教養入門 れている「教養」の意味について、3名の教員が、各々の問題関心や 専門領域を切り口として、交代で論じ、大学や社会との接点で自分 なりに考えるきっかけ作りを行う。なお、教員の個別に担当する授 教 業は、各4回ずつであり、それ以外の回は、3名の教員が共同で担当 養 講 義 1年次生を対象として、20世紀の歴史と現代の日本と世界に関する 概説を行う。学生が第二次世界大戦・冷戦体制・南北問題・55年体 科 現代社会の基礎知識 Ħ 制・高度経済成長・大衆社会・グローバリズム・新自由主義などの 現代の日本と世界の歴史的位相を理解するとともに、大学での教 養・専門教育を受講するうえで基礎となる政治・経済・社会的な知 識を得ることを目的とする。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本講義では、本来の意味での「哲学」、すなわち物事の原理的な あり方に向けた自己反省的な思考の営みへの入門となるべく、哲学 哲学a 史に関わる基礎的知識もふまえながら、哲学におけるいくつかの代 表的問題を紹介し、それについて学生各自の思考をうながすことを 目標とする。「a」では特に、おもに古代ギリシアから近代までの西 洋哲学の諸思想を基本的な素材としながら、例えば相対主義と普遍 主義、快楽主義と合理主義、個人と共同体、普遍と個体、自己意 識、人格の同一性、心身問題、時間等をめぐる哲学的諸問題をとり あげる。 本講義では、本来の意味での「哲学」、すなわち物事の原理的な あり方に向けた自己反省的な思考の営みへの入門となるべく、哲学 哲学b 史に関わる基礎的知識もふまえながら、哲学におけるいくつかの代表的問題を紹介し、それについて学生各自の思考をうながすことを目標とする。「b」では特に、おもに近代から現代にいたる西洋哲学 の諸思想を基本的な素材としながら、例えば自由意志論と決定論、 リベラリズムと共和主義、義務論と帰結主義、心理学的利己主義、 認識論上の実在論と非実在論、他我認識論、死等をめぐる哲学的諸 問題をとりあげる。 論理学a この講義では、20世紀以降に主流となってきた現代の「記号論理 への入門となることを大きな目標とするが、特に「a」では、日 常生活において論理法則のもつ意義や論理を記号化することの意味 等を考察・確認することからはじめ、主として「命題論理」における基礎的な諸事項(「原子命題と分子命題」、「否定・連言・選言」や「条件法」といった論理結合子、また「真理値」分析と真理 値表等にかかわる諸事項) についての知識を身につけさせることを 目的とする。 論理学h この講義では、20世紀以降に主流となってきた現代の「記号論理 学」への入門となることを大きな目標とするが、特に「b」では、 (「原子命題と分子命題」や「推論の形式化」といった)「命題論 理」の基礎事項を簡単に共有することからはじめ、主として「述語 養 論理」における基礎的な諸事項(わけても「存在量子化」、「全称 量子化」、「多重量子化」等にかかわるごく基本的な諸事項)につ 講 教 育 義 いての知識を身につけさせることを目的とする。 科 科 目 H 倫理学a 応用倫理学の諸問題を概説する講義科目。授業の目的は、(1) 倫理 学の一分野である応用倫理学の考え方を学ぶこと、(2) 論理的に思 考し意見を練り上げる方法を学ぶこと、(3) 自らの意見を表明する 方法を学ぶことの三点である。教員が講義した後、受講者は講義内 容に基づいて思考課題に取り組む。課題回答に対して教員がフィー ドバックを加える形で、受講者の思考を深めるようにする。受講者 が、現代社会の様々な倫理問題について論理立てた自分の意見を持 てる・表明できるようになることを授業の最終的な目標とする。 西洋倫理学上の代表的な学説を概説する講義科目。授業の目的は、 (1) 倫理学の学説を学ぶこと、(2) 論理的に思考し意見を練り上げ 倫理学b る方法を学ぶこと、(3) 自らの意見を表明する方法を学ぶことの三 るのにとう。 してある。教員が講義した後、受講者は講義内容に基づいて思考課題に取り組む。課題回答に対して教員がフィードバックを加える形 受講者の思考を深めるようにする。受講者が、現代社会の様々 な倫理問題について、倫理学説をふまえつつ論理立てた自分の意見 を持てる・表明できるようになることを授業の最終的な目標とす 社会思想a この講義では日本の「戦後民主主義」を中心に扱う。 近代化の過程において、市民革命以来「民主主義」は決定的に重要 な価値であり制度となったが、しかし反動化の繰り返しと数々の戦 争によって第二次世界大戦まで、各国でファシズム的独裁が続い た。その戦争への反省に立って、民主主義が本格的に模索されるの は二次大戦後のことであり、それゆえに「戦後民主主義」と呼ばれ だがそれはすぐに実現するものではなく、絶えず戦争責任や平 和主義との関係のなかで、いまなお模索され続けているものであ 日本でも代表的な戦後民主主義者たち(鶴見俊輔や丸山眞男や 藤田省三ら)が生涯を通じて格闘してきたが、限界もあった。この 講義ではいくつかの論争を通して、民主主義の現在を考える。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業では、代表的な経済学者の経済思想を、それぞれの市場 観を比較しながら紹介することを通じて、市場メカニズムについて 社会思想b の考察を深めることを目的とする。「自由」な経済主体同士が、利益を求めて市場で交換を行うことで、自動的に最適な分配が実現す るとされる市場メカニズムは、資本主義経済の効率性を示すととも に、自由、公平、平等といった規範にも適うものとして、評価され てきた。しかし、一方では、現実の市場経済が、恐慌や貧困や環境 破壊などをもたらしてきたことから、市場メカニズムに対する批判 もなされつづけてきた。こうした正反対のものを含む様々な評価 を、経済学者は生み出してきたのだが、その違いはそれぞれの経済 思想の体系と密接に関連している。市場観を通じて、経済思想体系 の多様性に触れ、市場経済のあり方について考えるための基礎知識 を獲得することが目標である。 現代社会と宗教a この講義は、 「宗教とは何か」という原理的な問いをふまえなが 一方では宗教の歴史的な諸形態と意味について、他方では宗教 をめぐり現代社会のなかで生じている諸問題について、学生に理解 をうながし思考させることを目標とする。 「a」では特に、「日本」 における宗教や宗教にかかわる社会現象を主題的にとりあげ、日本 の伝統宗教や宗教現象の歴史的な推移を概観したうえで、現代日本 における多様な社会領域における宗教諸現象等について講じる。 この講義は、「宗教とは何か」という原理的な問いをふまえなが 現代社会と宗教b 一方では宗教の歴史的な諸形態と意味について、他方では宗教 をめぐり現代社会のなかで生じている諸問題について、学生に理解 をうながし思考させることを目標とする。「宗教」を対象とする 「b」では、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教、ヒンドゥー教、 仏教等の世界宗教についてその基本的な教義・思想・実践等を概観 総 教 したうえで、近代国家や国家的暴力と宗教との関わり等について論 合 養 教 講 育 義 文化人類学の基本的な考え方について学ぶことを目標とする。授 業では文化や文化相対主義などの鍵概念を説明し、家族・親族、贈 文化人類学a 科 科 目 Ħ 与交換、呪術などの古典的あるいは現代的なテーマについて解説す 換、呪術などの古典IDののいるが、いか。 私たちにとって身近な日常から、世界の様々な文化まで、具体 倒ち湾京会昭1 かがら講義を准める。講義全体を通して、異文 的な例を適宜参照しながら講義を進める。講義全体を通して、 化の理解と自文化の相対化を同時に達成し、他者との対話を開いて いく文化人類学的な考え方の要諦を身につけることを目指す。 文化人類学b 文化人類学の基本的な考え方を具体的な地域的文脈に位置付け 再検討することで、文化人類学という学問への理解を深めることを 目標とする。授業ではアジア、アフリカ、アメリカ、オセアニア、 ヨーロッパにおける特定の地域を一つ以上取り上げ、地理的・歴史 的・政治経済的な背景などの地域的な文脈について紹介する。そし て、その地域で展開されてきた文化人類学的な議論について解説す るとともに、文化人類学的な考え方を用いてその地域における諸問 題を分析・考察する。授業全体を通して、ある特定の地域や異文 文化人類学的な議論について理解するだけでなく、現代的な諸 問題に対する文化人類学的なアプローチも学ぶ。 世界には約7000もの言語が存在することを紹介する。同時に、全 ての人間の言語は共通のシステムの上に構築されているという「普 言語学a **逼文法」の仮説について講義する。具体的には、** 「樹形図」と呼ば れる図形を描くことにより、日本語・英語・中国語の3つの言語に は、表面上には見えない共通点が存在することを示す。また、この 共通のシステムは人間が持つ生得的知識であると同時に、他の動物 のコミュニケーションシステムとは異なることを示す。こういった 言語の仕組みを学ぶことは、英語・中国語等の外国語の学習にも役 立つとともに、世界の言語を科学的な視野に立って観察する能力を 養うことができるため、国際理解にも役立つ。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 言語学b 言語獲得の視点から人間の言語の仕組みについて講義する。世界 中の人々は、特別な健康上の理由がない限り、幼いころに母語を獲 得する。この際、子どもの言語知識は大人が教える以上に豊富であ 、先行研究の実験例を提示して説明する。実験結果をもと に、子どもの言語知識の一部は生得的なものであり、子どもは「パ ラメータ設定」と呼ばれる作業を通じて母語の文法の設定を行うこ とを講義する。実際に、日本語・英語・中国語の文法の大まかな骨 格は、数個のパラメータ設定の違いで説明できることを示す。 いった各言語の文法の成り立ちを学ぶことは、英語・中国語等の外 国語の学習にも役立つ。 「カルチュラル・スタディーズ」は、人間が生まれたときから死 ぬときまでひとときも離れることのない「文化」における力関係に カルチュラル・スタディー ついて考える学問的姿勢である。そこには歴史、政治、経済などに 関わるさまざまな力学が作用しており、階級やジェンダー、民族や 「人種」といったカテゴリーをめぐる差異や差別が密接に関連して いる。この授業では、そのような「文化の力学」がどのように形成 され機能しているかを、多様な文化表象の分析を通して考察する が、「カルチュラル・スタディーズa」では、入門編として基本的な 概念に触れることを中心とする。 カルチュラル・スタディー 「カルチュラル・スタディーズ」という「文化の力学」につい て、更に広く深く学ぶために、「カルチュラル・スタディーズb」 は、応用編として、私たちの身の回りにある文化表象、特に映画や 演劇、音楽、アートといった芸術作品の詳細なテクスト分析や、ス ポーツ、広告、政治言説、メディアといった現代社会の機構に現れ ている力関係を具体的に考察する事を目的とする。 「文化」とは人 が社会的な力関係に囚われているだけでなく、自ら創造し変革して いくものでもある事を履修者が実感することが目指される。 生命の科学aでは、生物多様性と多様性を生み出す仕組みについて 生命の科学a 学びます。また、諫早湾を始めとする日本各地での環境破壊の事例 についても学びます。授業内容は、第1回 生物多様性とは何か・第 2回 生態系の多様性・第3回 サンゴとさんご礁について・第4回 合 養 教 講 育 義 種の多様性・第5回 遺伝的多様性(1)DNA・RNAとは・第6回 セント 科 科 ラルドグマ:概要・第7回 セントラルドグマ:転写・第8回 セン トラルドグマ:翻訳・第9回 セントラルドグマ:まとめ・第10回 遺伝的多様性(2)具体的な例・第11回 生物多様性の創出(概要) 第12回 生物多様性の創出(具体例)・第13回 生物多様性の減 少・第14回 生物多様性が減少すると何が起こるのか・第15回 生態系の破壊(諫早湾の事例等)です。氾濫する情報を取捨選択し、 その問題点を自分で見つけ出すことができるよう、環境と生命に関 する基礎的な知識を身につけましょう。 テレビやネットでは様々な生命科学の情報が氾濫していますが 生命の科学b 正しい情報だけでなく、誤った情報や過度に誇張された情報が数多 くあります。この授業では、遺伝子組み換えや免疫といった、私た ちに身近な生命科学のテーマを通じて、氾濫する情報を自分で取捨 選択できるようになるための基礎的な知識を身につけます。第1回 DNAとRNA・第2回 セントラルドグマ・第3回 「生殖・ゲノムイン プリンティング」を理解しよう(生殖戦略)・第4回 「 生殖・ゲノ ムインプリンティング」を理解しよう(配偶子形成、減数分裂)・ 第5回 哺乳動物の初期発生と「クローン」を理解しよう(受精) 第6回 哺乳動物の初期発生と「クローン」を理解しよう(発生) 第7回 動物の「ボディープラン」を理解しよう(再生医療)・第8 回 健康を守る「免疫」(概論)・第9回 健康を守る「免疫」 理的障壁)・第10回 健康を守る「免疫」を理解しよう(自然免 疫)・第11回 健康を守る「免疫」を理解しよう(獲得免疫の概 要)・第12回 免疫ができる「メカニズム」を知ろう(予防接種と 免疫ができる「メカニズム」を知ろう(免疫細 は) ・第13回 ・第14回 花粉症のもとになる「アレルギー」を理解しよう 胞) 第15回 花粉症のもとになる「アレルギー」を理解しよう(免疫シ ステムの反乱)です。氾濫する情報を取捨選択し、その問題点を自分で見つけ出すことができるよう、環境と生命に関する基礎的な知 識を身につけましょう。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 地球の科学a 本科目では地球の構造と形成史について基礎的な知識を涵養する 本科目では地球の構造とル成文に、ハいて金属田リなみ画域と個表することを目指している。半径約6400 kmの地球の中で、人類が実際に手にすることができる試料はごく一部である。そこで地球深部の構造や状態がどのような手段で研究され、どこまで解明されたかについていいばない。 てまず概観する。そして、そのような構造をもつ地球が、太陽系の 形成という枠組の中で経てきた進化について考察する。関連して地 球の歴史を復元する学問である地質学の考え方と歴史、その復元の 基礎となる年代測定法についても解説する。 変動帯である日本列島に住むわれわれにとって、地震や火山噴火 は日常的に経験するものであり、将来の災害への対応という観点で 地球の科学h これらの現象についての基礎的な知識は欠くことのできないもので ある。本科目では、まず、地震や火山活動のメカニズムの理解に欠 かせないプレートテクトニクスについて、学説が組み立てられた歴 史的経緯も交えて解説する。それを踏まえて、日本列島付近で発生 する地震のメカニズムと特徴についてまとめる。さらに、地球上で のマグマの発生メカニズムと多様な噴火現象について概観し、火山 噴火が環境やわれわれの生活に与える影響について考察する。 環境の科学a 環境の科学aでは、講義形式で、自然環境の生態学的な認識を培 植物の生き方に学ぶ。 「環境の時代」をよりよく生きるためには、自然環境に対する価 値を認識しなおし、科学的な環境観、自然観も取り入れた上で様々な意思決定を行う必要がある。そのためには、生物と環境の関係性を扱う科学である生態学の知見や視点が大いに役立つ。本講義で は、多様な観点から生物(主に植物)の暮らしぶりや生態系の仕組 みについて講述し、生態学的な知見や視点の獲得を目指す。 合教 養 講 環境の科学h 環境の科学bでは、地球生態系と地球環境の変化について、講義形 育 義 式で学ぶ 科 科 「環境の時代」をよりよく生きるためには、地球生態系と地球環 H Ħ 境の変化について理解する必要がある。本講義では、そのために、 まず、地球という惑星の構造や仕組みについて概説した後、北極か ら南極までの陸上および海洋に形成されている様々な生態系の構造 や仕組みを紹介する。そして、それぞれの生態系で顕在化している 環境の変化を取り上げ、地球規模での環境の変化が生態系に及ぼす 影響について講述する。 自然の構造aでは、「天文学の歴史」、つまり、「人類が宇宙という大きな自然の構造を探ってきた科学の歴史」を講義形式で学んで 自然の構造a 天文学が明らかにした宇宙についての科学的知識は、「直接目で 見たり、手で触ったりできない」ものについての知識であり、様々 な人々の試行錯誤の積み重ねによって歴史的に獲得されてきたもの である。本講義では、古代から現代にいたるまでの天文学の歴史を 概観することを通して、宇宙という「見たり、さわったりできない」大きな自然の構造についての科学的知識をどのようにして獲得 してきたのかを学んでいく。 自然の構造bでは、「身近なこと」、および、「身近でないこと」 についての話題を通して物理学を講義形式で学んでいく。 自然の構造b 物理学は、自然が従っている法則を見出し、様々な自然現象や自 然の構造を探る基礎的な科学である。人間も自然の一部分であるので、日常生活で用いられる様々な機械や道具は、物理学が明らかに した自然の法則と自然の構造を応用して作られている。そのため、 現代社会において物理学の果たす役割は計り知れない。そこで、本 講義では、表面的には無関係のように見えるが、実際には相互に深 く関係している、いくつかの話題を通して物理学について学んでい く。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 自然地理学aでは、自然環境と人間社会とのつながりについて、主 に地形学の観点から講義形式で学ぶ。自然地理学は、地理学のなか 自然地理学a でも地学(地球科学)に近い分野であるが、"自然の原理"に加えて"人間の生活の営み"を関連づける視点は自然地理学ならではの ものである。本講義では、多面的な視野をもって自然地理学的観点 から「世界のなかの日本」を能動的に捉えられるようになるため こ、主に地形学の観点から「自然環境と人間社会とのつながり」を 捉え、自然地理学に関する基礎知識について講述する。 自然地理学b 自然地理学bでは、自然環境と人間社会とのつながりについて に気候学などの観点から講義形式で学ぶ。自然地理学は、地理学の なかでも地学(地球科学)に近い分野であるが、"自然の原理"に加えて"人間の生活の営み"を関連づける視点は自然地理学ならで 加えていた。 はのものである。本講義では、多面的な視野をもって自然地理学的 観点から「世界のなかの日本」を能動的に捉えられるようになるた めに、主に気候学、植生地理学、土壌学、地理情報システムの観点 から「自然環境と人間社会とのつながり」を捉え、自然地理学に関 する基礎知識について講述する。 高校2年生レベルから大学教養レベルの数学を題材にして、関数 数理の科学Ia 概念の解説と応用例を紹介する授業である。取り上げる題材は、一次関数、二次関数、指数関数、対数関数、三角関数などで、実社会で活用された具体例を理論的な背景とともに解説する。これしの学 習を通して実社会と数学の結び付きを理解し、現実問題に対して数 理的なアプローチができる思考能力を育成することがこの授業の目 標である。この授業は座学を中心とした講義科目である。 教 萶 合 教 講 数理の科学 I b 高校2年生レベルから大学教養レベルの数学を題材にした微積分 学の講義である。取り上げる題材は、極限、微分係数、導関数、整 杳 義 関数の微分、指数・対数関数の微分、三角関数の微分、区分求積 科 科 リーマン積分などで、抽象的な理論を中心に解説し適宜応用例 目 Ħ には、 を紹介する。これらの学習を通して実社会において微積分学が果た した役割を理解し、現実問題に対して数理的なアプローチができる 思考能力を育成することがこの授業の目標である。この授業は座学 を中心とした講義科目である。 数理の科学Ⅱa 数理の科学IIの授業では、統計解析やデータ解析を通して タサイエンス (統計科学) の基礎を身につけることを目的としている。数理の科学IIaの授業内容は、データを適切にまとめる (情報を 処理する)ための基礎的な手法を学ぶことである。基本統計量(平 均、標準偏差、相関係数など)の意味と計算方法を修得し、基本的な確率(順列・組合せを含む)の考え方を理解したうえで、理論的 な確率分布 (離散型確率分布として二項分布、連続型確率分布として正規分布) の基礎について学ぶ。さらに、理論的な確率分布と現 実のデータ(実データ)の分布の関係性についての理解を深める。 数理の科学IIの授業では、統計解析やデータ解析を通して、テ 数理の科学Ⅱb タサイエンス(統計科学)の基礎を身につけることを目的としてい る。数理の科学IIbの授業内容は、適切にまとめられた(情報処理さ れた) データの集計結果を基にして、統計的に有意な情報が得られ たかどうかを吟味するために推測統計を中心として学ぶ。点推定・ 区間推定・統計的仮説検定を適切に利用し、母集団分布とデータに 基づく標本分布を的確に比較検討が行えるようにする。また、発展 的な授業内容として、多変量データ解析手法としてよく利用される 回帰分析等について、その適用方法についての基本を学ぶ。

5 授 業 科 目 ഗ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 歴史で知る東京経済大学 東京経済大学の120年にわたる歩みについて体系的に講義する。具 体的には、創立者・大倉喜八郎が近代日本経済史に占める位置から 始め、大倉商業学校の設立、大倉高等商業学校への昇格と発展、戦 時体制下の学苑と学生生活、国分寺への移転、高度成長期の大学の 大衆化と本学の発展、総合大学化の展開、現時点での大学の課題等 に説き及ぶ。以上の講義内容を通じて、受講生が本学の歴史的位置 を客観的に把握し、本学の学生であることの意義を理解できるよう にする。その際、日本の近現代史において、大学を始めとする高等 教育が担ってきた役割をふまえ、また大学の歴史や機能を、そこに 生きる学生の視点からも捉えることで、受講生が大学生としての自 己の歴史的・社会的位置を深く認識できるようにする。 日本史 I a 日本列島の古代・中世の歴史に関する基礎的な知識を教授し、 講生が日本社会を把握するための前提となる教養を身につけられる ようにする。とりわけ当時における人々の生き方や、そこから見え てくる精神性について学び、日本における古代や中世がいかなる時 代であったのか、その特徴をつかむ。具体的には、貴族から庶民ま での諸階層にわたる生活様式、特定の集団や場所で共有された慣 習・習俗、それらを規定した自然環境・災害などを主題として 「文化」への接近を試みる。それにより、現代の常識が当時は全く 当てはまらない場合があり、逆に表層の変化にもかかわらず本質的 には大きく変わっていない場合があることを理解させる。以上を通 現代の我々がよって立つ常識が絶対のものではなく、 部であるという相対的思考に、受講生が達するように促す。 日本史 I b 近世日本の歴史に関する基礎的な知識を教授し、受講生が日本社 会を把握するための前提となる教養を身につけられるようにする。 具体的には、当時の百科事典である『和漢三才図会』の諸項目を取 総 教 り上げ、その内容の歴史的意味について、背景となる政治や社会制度と関連づけながら解説する。とりわけ、宇宙や時間、自然環境、 養 教 講 身体、地理的観念といった、近世社会のコスモロジーの体系や、男 育 義 と女、人間と動物といった境界を枠づける観念、衣食住や生業・道 科 科 具に関わる知識のあり方を探る。これにより、近世日本の知の枠組 目 みを通じて当時の社会総体の把握を試みる。現代の「科学的」観点 からすれば、一見荒唐無稽な内容も、当該期の人々の感性や認識を 理解する格好の素材であることを理解させ、受講生が現代の視点を 相対化し、多角的な思考ができるように促す。 日本の近現代史について一貫した視点から講義し、その展開と枠 組みに関する基礎的かつ体系的な知識を提示する。それにより、社 日本史Ⅱa 会科学の専門的な学習の前提となる、時代の変化の大きな流れや社 会に関する構造的な見方、歴史の変化の因果関係をつかむ思考能力 を養う。幕末維新期から高度経済成長期にわたる通史的な構成に配 慮して一貫した見通しをつけるとともに、特に「民衆」の視点から 歴史を把握できるように、人々の具体的な生活や意識の手ざわりが 伝わる史料を提示し、その読解を通して、私たちの足もとにつなが る「近い過去」の巨大な変化を、受講生が実感できるようにする。 日本の近現代史の展開を、沖縄というひとつの地域にそくして説 日本中IIb 明し直すことで、受講生が近現代の世界史・日本史に関する高等学 校卒業段階の知識を批判的に検証し、従来の歴史像を相対化する視 点を獲得できるようにする。具体的には、沖縄の近現代史の歩みに 凝縮して現れる6つの問題群(民族と差別、戦争とその記憶、基地 と人権、ナショナリズム、開発と文化、人の移動)をとりあげ、それらから浮かびあがる課題を検証する。それにより、ある特定の地 域の歴史からも、現代社会の諸問題と密接にかかわる普遍的な課題 をつかみとれる能力を身につけ、ひいては地域史学習に対する理解 が深まるようにする。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 ョーロッパとアメリカを中心に世界の歴史を学ぶことを通じて、 人間の生と社会のあり方を理解し、現在の私たちを取り巻く問題を 外国中Ia 解決するための手がかりを得る。前期は中世ヨーロッパの人間と社 会について、騎士・農民/市民・聖職者などの人々の生活を取り上 げて論ずる。後期は近世ヨーロッパの人間と社会について、宗教改 革とヨーロッパの世界進出後の人々の姿を紹介しながら論ずる。 外国史Ib イスラーム世界と東アジアを中心に世界の歴史について講義で 中東・地中海地域はエジプト文明・メソポタミア文明以来、世 る。 中東・地中海地域はエンティスター アティック スティース アータの最先端地域を構成してきた。 中国やインドも文明の独自性を強め、発展・拡大していった。 この地域のアジア史を展望し、現代世 界に対する理解、諸学問を根底から問い直す視点を示す。 現代中国を総体的にとらえるためには、歴史学的アプローチが不 外国史Ⅱa 可欠である。特に、中国の近代化の起点である清末(清朝末期)か ら中華民国へかけての時代は、中華人民共和国期へ直接的に多大な 影響を及ぼした時代である。よって本講義では、清末の新政から中 華人民共和国成立前夜までの歴史を考察することを通じ、中国近現 代史への通史的理解を深めるだけではなく、今日の中国情勢を歴史 的に考える視角を身につけることを目的とする。 外国史Ⅱb 現代中国の歴史といった時に想起するのは、毛沢東であろうか。 しかし、毛沢東時代と呼ばれる1950年代から70年代だけでも、中国 の国内外情勢はめまぐるしく変化した。また、現代中国の歴史といった場合、中華人民共和国の歴史を対象にするだけではなく、第 二次世界大戦後を中心とした台湾や香港の歴史をあわせて位置づけ 教 る必要がある。よって本講義では、中華人民共和国の成立後から今 養 日までの歴史と、戦後の台湾や香港の歴史を考察することを通じ、 教 講 現代中国の歴史を多角的に把握することを目的とする。 育 義 科 科 Ħ 人文地理学a 日本地図を基礎にして主題ごとに作成された「主題図」を読解す ることで、日本の地域的差異を学び、そこから受講生が、現代日本 が抱える問題を認識できるようにする。具体的には、第一次産業の 分布や産業立地、経済活動、政治生活、交通・エネルギーのインフラ等に関する主題図を取り上げて講義する。これにより、日本で生 活する者として必要とされる日本地理に関する基礎的な教養を身に つけるとともに、世界のなかに置かれた日本の状況・立場を理解 し、国際的なコミュニケーションに役立てる能力が身につくように する。同時に、「主題図」の読解を重ねることによって、地図から 様々な情報を読み解く能力を身につけ、ニュース報道などで得られ る知識を分析・評価できるようにする。統計データや地図作成ソフ トなど、地図作成に関する技術の現状を理解させることにも注意す 世界地図を基礎にして主題ごとに作成された「主題図」を読解す 人文地理学b ることで、世界の現勢を学び、そこから受講生が、現代世界が抱え る諸問題を認識できるようにする。具体的には、20世紀後半以降の 世界史的な出来事や諸問題を表した地図、そして世界各地域の現状 を可視化する地図、とりわけアジア・アフリカ地域の現在と将来に 関する主題図を取り上げて講義する。これにより受講生が、今日の グローバル化する世界に生きる者として必要とされる世界地理に関 クローハル化する世界に生きる自こして必要とこれる世界に受する教養を身につけ、日本の置かれた立場や状況をより客観的に理解できるようにする。同時に、「主題図」の読解を重ねることで、地図から様々な情報を読み解く能力を身につけ、ニュース報道と関 で得られる知識を分析・評価できるようにする。地政学や近代世界 システムなど、世界地理を把握する方法や理論的立場に関する歴史 についても概観する。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 現在の国民国家の枠組にとらわれることなく、自然や文化的な境 界にそくした一定の地域圏(ラテンアメリカ、地中海世界、フラン 世界の地域と文化a ス語圏等)を設定し、その地域の歴史・社会や文化の特質、 地域内 部における共通性と差異、その地域が直面している課題などを、具 体的かつ多面的に検討する科目である。具体的には、ロシアという 広大な地域圏について、 気候風土や歴史に関する基礎的な知識を教 授する。ソヴィエト連邦が崩壊して以降、日本にとってロシアはま と、隣人の具体的な素顔を知る機会は少ない。そのため本講義では、特にロシア語圏において華開いた芸術、とりわけ舞台芸術や映 画の発展をとりあげ、現代世界の文化に与えたロシアの影響力と意 義について解説する。 世界の地域と文化b ロシア地域の歴史と現状について、特に芸術から食生活にわたる 文化の諸相を丁寧に紹介し、この地域圏が生んだ豊かな精神世界の内実にふれる機会を提供する。その際、断片的な紹介に陥ることを避け、演劇・音楽・文学・美術など、それぞれで世界的達成を見た19~20世紀のロシア文化が共有する、文化・芸術に関する理念や思 想に注意を払い、具体的な文化運動や思潮・流派が果たした歴史的 意義を重視して分析・解説する。それにより、受講生がひとつの地 域が生み出す諸芸術を横断的に捉える視角を身につけ、地域圏を立 体的に捉える方法的視点を養えるようにする。 心理学a 心理学の主要な領域を網羅する、心理学入門。具体的には、知 覚・認知・学習・社会・臨床といった心理学の領域に関して、 の心理学的諸問題と基礎理論を取り上げる。我々が身のまわりの環 境(人や物)との相互作用を通して、さまざまな情報を取り入れ、 整理し、行動を選択している心理的なプロセスについて、身近な経 験や具体的な事象を取り上げながら、知・情・意を含む心のしくみ を批判的に検討し、客観的に理解できるようになることを目指す。 教 合教 養 発達心理学・人格心理学において「可塑性(plasticity)」、すなわち環境に適応して柔軟に変化する力が各発達期においてどのよ 講 心理学b 育 義 科 うに論じられてきたかを学び、生涯発達のダイナミズムについて理 科 解する。エリクソンの発達段階などの基礎理論から、最近の応用・ Ħ 目 解する。エリグノンの発達权情なこの基礎と聞いる、取組が心所実践的研究まで幅広い知見をもとに、「歳を取るとどう"なる"か」ではなく、「歳を取ることをどう"する"か」という生涯発達心理学の枠組みを理解することを選して、日頃の生活や対人関係を とらえなおす契機となることを目指す。 フロイトが創始した精神分析学について、その歴史的意義や今日 の精神科医療・精神医学への影響について詳解する。この授業は講 精神の科学a 義科目である。授業の目的は、精神分析学の基本を理解することで あるが、現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野 における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力を身に つけることを学習の目標としている。具体的な内容としては (1) 精神分析学の黎明期 フロイト、ヒステリーと疾病利得、 「精神分析」、「ヒステリー研究」、 心的現実論、(5)症例「ねずみおと (2)精神分析学の確立 (3) 内的欲動論、(4) 心的現実論、 (6) フロイトの性欲論 幼児性欲、発達論、(7)フロイト 病理学理論の歴史的変遷、(8) アドラー、(9) ユング、 の精神病理学理論の歴史的変遷、 (10)行動科学と心身症、を取り上げて詳解する。 精神の科学b 精神科で取り扱う様々な病気について、診断、治療等を含め詳解 この授業は講義科目である。現代社会における諸問題あるい はさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する 実践的な知識・能力を身につけることを学習の目標としている。具 体的な内容としては、(1) 意識の障害、(2) 知能の障 (3) 性格の障害、(4) 思考の障害 思路障害、妄想、 (2) 知能の障害、 為の障害、(6) 幻覚、(7) 自我意識の障害、(8) 統合失調症 総論、各論、(9) うつ病・躁うつ病 総論、各論、(10) 神経症、 (11) 神経心理学、を取り上げて詳解する。

5 授 業 科 目 ഗ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本講義では、教育に関わる基礎的・原理的な用語、教育事項、概念 を扱う。具体的には、教育の目的とは何か、学校とは何か、教育と 教育学a 学校の歴史、学力論、教育と社会の接続、教育評価、授業方法論 (教育課程論・教授法・教材論・授業サイクル論・動機づけの理 論)等である。これはまた、教育職員免許法で規定される「教育の 本質及び目標に関する科目」および「教育に関わる社会的、制度的 又は経営的な事項に関する科目」に該当する内容である。 本講義では、教育に関わる基礎的・原理的な用語、教育事項、概念 を扱う。具体的には、海外における教育の事例とその日本との比 教育学b 較、歴史教育の目的と具体的手法、政治教育の目的と手法、教育と 社会の接続、授業方法論(教育課程論・教授法・教材論・授業サイクル論・動機づけの理論)等である。これはまた、教育職員免許法で規定される「教育の本質及び目標に関する科目」および「教育に 関わる社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目」に該当する 内容である。 健康の科学a この授業は、健康を支える3大要素である運動、栄養、休養につい て概説し、健康は人生を豊かにする要因であり、健康を積極的に作 り出していくために具体的に何が必要なのかを学習することを目的 とする。競技スポーツと健康を維持・促進する運動との違いや、運 動不足と生活習慣病との関連について解説したり、栄養バランス、 肥満やそれに関連する疾患、ダイエットの問題ついて解説したり、 疲労、睡眠の内容と機能などについて解説したりする。 総 教 合 養 この授業は、スポーツトレーニングの基本原則を紹介した上で、 健康の科学h 各種体力要因の意味やこれらを効果的に高めるためのトレーニング 教 講 育 義 方法について幅広く学習し、実際の生活で活用できるようにするこ 科 科 とを目的とする。効率的かつ効果的なトレーニングにより体力を向上させることは、アスリートばかりではなく、一般人にとっても、 生涯にわたって健康で活動的な生活を過ごす上で重要なことを解説 目 Ħ し、具体的なトレーニング内容についても紹介する。 スポーツの科学a スポーツの分野では、身体活動の仕組みや技術・戦術の分析と開 発、また、効果的なトレーニング方法の開発や効果の検証、栄養、 休息、用具の開発のためなど、幅広く研究されている。スポーツの 科学aでは、一般人の健康維持に必要な身体活動の仕組みや健康の維 持と体力向上のために必要な運動方法などについての知識を高め スポーツの分野では、身体活動の仕組みや技術・戦術の分析と開 スポーツの科学h 発、また、効果的なトレーニング方法の開発や効果の検証、栄養、 休息、用具の開発のためなど、幅広く研究されている。スポーツの 科学bでは、 トップアスリートの競技力向上のためのトレーニング方 法やトップアスリートの技術・戦術の分析などを学び、スポーツ科 学に対する幅広い知識を学ぶことを目的とする。 芸術学a 本講義は、ルネッサンスから19世紀までの視覚芸術(美術)に関 し、種々作品の歴史性、社会性や制作の過程や作者の背景を踏まえ つつ、これまで行われてきた美術研究的な鑑賞方法をたどり直しな 今日的な美術鑑賞のあり方とその可能性について検討する。 美術作品に対する審美的な価値付け・評価を歴史的に問い直し、それがどのように社会、歴史、文化に依拠しているのかを考察することで、主体的な見方を養い、批判的精神を高め、合理的な判断を培 うことを目的とする。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本講義は、20世紀及び21世紀の視覚芸術(美術)に関し、種々作 品の歴史性、社会性や制作の過程や作者の背景を踏まえつつ、これ 芸術学b まで行われてきた美術研究的な鑑賞方法をたどり直しながら、 的な美術鑑賞のあり方とその可能性について検討するものである。 美術作品に対する審美的な価値付け・評価が根本的に変化した20世 紀以降の美術をとらえ返すことで、現代の審美性を規定する社会、 歴史、文化を反省的に考察して、主体的な見方を養い、批判的精神 を高め、合理的な判断を培うことを目的とする。 日本文学の古典作品を対象として、多角的な観点から分析を試みる。文学だけではなく、歴史・地理・芸能・美術・民俗など幅広い分野からの考察を加えながら、作品世界を深く読み解く術を講義す 日本文学 I a る。古典作品の理解を通して、古人からのメッセージを読み取り、 現代に生きる知恵として生かすことを主眼とする、第一学期に開講 する授業である。 日本文学Ib る。古典作品の理解を通して、古人からのメッセージを読み取り 現代に生きる知恵として生かすことを主眼とする、第二学期に開講 する授業である。 日本文学Ⅱa 日本最古の神話・歴史書として位置づけられる『古事記』 巻」の「イザナキ・イザナミ神話」を読み解きながら、その物語構 造を比較文学的視点や神話学的視点などから論ずる。神話は、その 神話を生みだした文化圏の文化的バックボーンとして機能する場合 が多く、さまざまなエピソードとして語られる物語内容は、象徴的 数 な形で文化的規範や美意識を決定づけることもしばしばである。本 養 合 「教養」に関する「基本的な知識と能力」を身につけるこ 講義は、 講 教 とを目的としているのだが、具体的には、文化の違いを越えた普遍 的な物語構造を学習するとともに、日本人独特の文化規範への理解 育 義 科 科 を深めることを目標としている。 日本文学Ⅱb 日本最古の神話・歴史書として位置づけられる『古事記』 巻」の「アマテラス・スサノヲ神話」 「大国主神話」を中心に読 み解きつつ、その物語構造を比較文学的や神話学的視点などから論 ずる。さまざまなエピソードとして語られる神話の物語内容は、象 徴的な形で文化的規範や美意識を決定づけることもしばしばであ さらに、日本の民話や昔話、他の文化圏の神話、日本や西欧の 文学、文化規範の比較にまで幅広く言及することによって、文化の 違いを越えた普遍的な物語構造を学習するとともに、日本人独特の 文化規範への理解を深めることを目標としている。 外国文学Ia この講義では、西洋に大別される海外の国々・地域・言語・文化 に関連した文学を論じる。各時代の代表的な文学作品を選び、それ らを形式と内容の両面に着目しながら分析することで、 人間の存在 こついて探究する。また、作品の背景となる歴史的・社会的・文化 的事象についても言及し、それらについて検討する。さらに、 文学 を含む芸術全般や言語文化についても考察の対象とし、理解を深め ることを目指す。この講義は1期に開講される。 外国文学 I b この講義では、西洋に大別される海外の国々・地域・言語・文化 に関連した文学を論じる。各時代の代表的な文学作品を選び、それ らを形式と内容の両面に着目しながら分析することで、 人間の存在 こついて探究する。また、作品の背景となる歴史的・社会的・文化 的事象についても言及し、それらについて検討する。 さらに、文学を含む芸術全般や言語文化についても考察の対象とし、理解を深め ることを目指す。この講義は2期に開講される。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本講義では、近代以降、人や物や文化の移動・交流が常態化する とで生じた社会の「差異」に由来して生み出された外国文学・映 外国文学Ⅱa 「マイグレーション (移動/移住)」という観点を 画作品に対し、 通じて、作品に対する学術的な読解、分析、比較方法について学び ながら、作品の描くあるいは背景となる歴史的・社会的出来事の由 来や構造について考察する。表現とその表現がよって立つ歴史性や 社会性を理解し、自らの社会や文化を顧みつつ、異文化や多文化状 況に対する想像力と感受性を涵養することが目的である。 本講義では、近代以降、人や物や文化の移動・交流が常態化する とで生じた社会の「差異」に由来して生み出された外国文学・映 『に対し、「共生」という観点を通じて、作品に対する学術的な読 『、分析、比較方法について学びながら、作品の描くあるいは背景 外国文学Ⅱb 画に対し、 となる歴史的・社会的出来事の由来や構造について考察する。表現 とその表現がよって立つ歴史性や社会性を理解し、自らの社会や文 化を顧みつつ、異文化や多文化状況に対する想像力と感受性を涵養 することが目的である。 身近なメディアの事例から出発し、主に視聴覚メディアに素材を 求めながら、メディアを使って展開される様々な表現の可能性を考 えていく。「メディア」「表現」など、この講義の中心となる概念 についての検討を通して、コミュニケーション論の基礎的な図式へ の理解を深めるとともに、視聴覚メディアの発達の歴史と、現代の メディア表現a 様々な視聴覚メディアの技術的背景について理解し、自らの思考の 道具としてこうした諸概念や知識を活用できるようになることが到 達目標となる。授業前半では、講義の中心となる概念に触れなが コミュニケーション論の基礎的な構図を把握し、身近なメディ アの特性を考える上で必要な、基本的なメディア論的視点について 合 養 講じる。後半には、視聴覚メディアの発達の歴史と、技術的背景に 教 講 ついて、映画を中心とした映像表現を参照しながら講じる。 育 義 科 科 Ħ メディア表現b メディア表現 a で講じた基本的なメディア論的視点を踏まえて 映像表現の古典的作品に触れ、主に視聴覚メディアを使って展開さ れる様々な表現の可能性を、現代的な観点もとりいれながら考えて いく。20世紀初頭以降の映画を中心とした映像作品について、技術 的背景や、作品を生み出した文化の社会的背景などについて理解を 深めるとともに、多様なメディア表現を生み出す制作者たちの営為に関連する知識、特に編集技法についての基礎的知識を習得し、自 らの思考の道具としてこうした知識を活用できるようになることが 履修を通した到達目標となる。 現代社会においては「コミュニケーション」が重要だと考えられている。例えば、「コミュカ(コミュニケーション能力」、「コミュ障(コミュニケーション障害)」、「異文化コミュニケーショ コミュニケーション論a マコーグ フョン(ロー) フョン(中音) 」、「ススにー、コープン ファン アンコン に関わる言葉が話題になったが、一方で私たちは、どれほどこの「コミュニケーション」について日頃意識しているだろうか。そこで、主として講義形式で実施される本授業では、「コミュニケーション」を理解するうえで の前提となる数多くの基礎的な概念、およびそれを支える社会的、 技術的環境に触れながら、その全体像を掴むことを目標とする。 コミュニケーション論b 現代社会において様々な場面で必要とされる「コミュニケー ン (力) 」であるが、そのありようを理解するためには、基礎的な 概念や全体像をつかむだけではなく、個々のコミュニケーションが 社会的事象として立ち現れる様子を注意深く観察することも必要で ある。そこで、主として講義形式で実施される本授業では、特定の テーマや事例に即してコミュニケーションを取り上げることでその 理解を深める。具体的には、広告と購買行動、マスメディアの報道 と投票行動、SNSと友人関係など、履修者の関心も考慮しながら、柔 軟にテーマを設定する。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 グローバル化、多様化が進む現代の社会は、様々な文化背景を持つ人々が共存することによって成立している。多文化が共存する社 **異文化コミュニケーション** 会においては、自らの文化に固執するばかりではなく、他者の文化 を柔軟に受け入れる姿勢が重要となる。 この講義では 人の心の中 に文化が形成されていく過程、自分と他者の文化的相違、文化間接 触の際に起こる様々な現象を検討する。その上で、異なる文化背景を持つ人々と交流する際に必要な資質を、理論と具体例の両面に触 れながら確認していく。 異文化コミュニケーション グローバル化、多様化が進む現代の社会は、様々な文化背景を持 つ人々が共存することによって成立している。多文化が共存する社 会においては、自らの文化に固執するばかりではなく、他者の文化 を柔軟に受け入れる姿勢が重要となる。この講義では、様々な人々 の異文化体験や国際学生交流プログラムでの出来事などを紹介し、 異文化間交流の中で人の中に起こる感情や変化、学びを解説してい その上で異文化・多文化コミュニケーションに積極的に関わる ことの意義を確認する。 政治学a 現代日本における政治の基礎的な概念の理解と知識の取得および 政治的思考力を養う。議会政治を中心とした政治思想や理念、政治 体制、政治制度について、日本の政治がどのような特性をもってい るのか幅広い観点から考察していく。代表や議会などデモクラシー における基本的な概念については、時事的な問題についても取り上 げ、社会における政治的な事象と授業で学ぶ知識とを結び付けて 現代社会が抱える特性や課題について考えていく。 こうした学習を とおして、政治的な事象や問題について広い視野で考察していく力 を養う。 本講義では、現代社会における政治的なしくみや運用、政策手法 や課題について、より深い知識と理解を得ることを目標とする。戦 政治学b 総 教 後の政党政治や自治体の政策において、社会における政治的意思決 合 養 定や政策がどのように変化してきたのか学習する。このとき、今日 教 講 にいたる政党情勢の変化や、政治過程における政党の役割につい 育 義 科 科 歴史的な過程や制度の変化をとともに複合的に学ぶ。 方自治の観点から、地方分権に伴う自治体の変化や、自治体政策の 形成過程について具体的な事例をとりあげつつ学んでいく。さら に、政治参加や政治意識について現代における課題を理解する。 こうした内容を通して、変化の著しい社会において、政治的思考 をもち、関わっていったらよいのか、自らの問題としてとらえ考察 していく。 私たちの「社会」は多種多様な問題を抱えている。政治、経済だ 社会学a けでなく文化、環境、諸々の地域間格差、都市の問題、性別や民 族、労働についての問題など。こうした諸問題は私たちの日常生活 を取り巻き、私たちの思考や経験を規定しているといえる。 このよ うな「社会」を認識する方法として社会学が存在するが、対象となる社会が多様であることを反映し、認識方法としての社会学も多様 であり、多くの理論家が存在する。この講義では、社会学を体系化 した幾人かの理論家を紹介しながら、社会を「認識する」「体系的 に理解する」という営みがどのようなものかを根本から考える。 社会学b 近現代社会を特徴づけるのは「国民国家」の成立である。しかし 「国家」も「国民」も固定化された物理的存在ではなく、社会的概 念である以上、どのように対象化しどのように認識するのかが問われる。この講義では、さまざまな社会学理論のなかで、社会や国民 れる。 を「自己統治」や「主体化」や「生権力」といった概念で分析する とで、世界的に大きな影響力をもったミシェル・フーコーの理論 を軸にして進めていく。フーコーの議論では、「性」「人種」「階 級」といった国民アイデンティティを規定する諸概念や、「権力」 や「戦争」や「刑罰」といった国民化を支え包囲するシステムが俎 上に載せられるだろう。それを通して、近現代社会を見る目を養っ ていく。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 授業は講義形式で行う。指定したテキストと随時配布するプリントを参照しながら進行する。日本という国の最も根本的なあり方を 法学 決めているのが日本国憲法である。この法典がどのような内容であ り、どのように役立っているのかを、主として人権保障について学 ぶ。憲法という法の特質、日本における憲法の歴史、日本国憲法に よって保障されている人権の内容等についての理解をふまえて、憲 法典のみならず関係法令、関係判例なども学習対象とする。 日本国憲法 授業は講義形式で行う。指定したテキストと随時配布するプリン トを参照しながら進行する。日本という国の最も根本的なあり方を 決めているのが日本国憲法である。この法典がどのような内容であ り、どのように役立っているのかを、主として統治機構について学 ぶ。日本国憲法が定める国の仕組み、すなわち、国会、内閣、裁判 所、平和主義、地方自治、財政等の概要について、関係法令及び判 例等を参照しながら理解を深める。 人権論a 人権」とは、それ自体で存在する自明の権利ではない。 家権力が人びとを管理統制するための法体系によって「犯罪」という概念を生み出し、この統制への対抗措置として「人権保障」の概 念が作り上げられていった。同時に、国家権力はこの統制過程で 「規範的な国民」(マジョリティ)と、その規範を逸脱する「マイノリティ」という区分を生み出し、差別を制度化しもした。そこで保障される人権もまた差別化されていくが、批判的で別標準の場合によった。 の差別化を問題視しうる。 この講義では、犯罪学や刑罰論の視点か ら、国家と人権の問題を歴史的・理論的に解説しながら、現代社会 における具体的な事例にも迫っていく。 人権論b 「人権」は、グローバル化の進む現代社会において世界規模での 戦争や武力紛争が絶えないなかで、ますます重要な概念となっている。近代国家は「国民」や「民族」といった概念とともに発展して 総 教 合 萶 る。近八国本は、国民、、、人族、ことりた成立ととは民港成した。 きたが、その線引きをめぐる争いは国際刑事司法や難民保護の制度 を生み出した。またグローバル経済は大規模な移住労働者を伴い、 1教育 講 義 彼らを非正規労働という法的権利が不安定な立場にしばしば追い込 科 科 む。同時に移民に反発する人びとによる移民排斥運動などの現象を 目 Ħ も派生させている。したがって、近代的「人権」概念の保障も、国 家の枠を超えて、国際的かつグローバルな規模で考えていく必要が ある。この講義では、こうした現代社会における「人権」の意義に ついて具体的に論じていく。 世界政治論a グローバリズムの急速な進展にともない、世界は相互依存を深め 一方で、貧富格差の拡大、生活基盤の破壊等が進行し、政治的・ 民族的・経済的な対立・紛争も頻発している。そうしたなかでとり わけ移民問題・難民問題が、世界の各地で重要課題となってきてお り、日本においてもそれは例外ではない。この講義では、国家と国 家の関係を考える国際関係論とは視点を変えて、国境を越えて移動 する/移動させられる移民・難民の視点から、世界規模での政治の 動向と国家や国民のカタチの変貌について、その歴史と現在を丁寧 に見ていく。国家・国境を超えた視点を持つことは、大きく変化し ていくグローバル社会を生きていくうえで、必須の教養であるだろ 世界政治のなかで、欧米・アジア・アフリカの結節点である中東 は、地政学的地位のために、そして石油エネルギー資源のために、 世界政治論b 特別に重要な重みを持っている。大国の侵略と植民地支配、中東書国家体制への分断と独立、そして数々の紛争・戦争。その中東和平問題のなかで特に大きな懸案となってきたのがパレスチナ/イスラ エルであった。ヨーロッパの反ユダヤ主義の余波を受けたユダヤ人 のパレスチナ入植をきっかけに、イスラエルが軍事力によって建国 され、周辺アラブ諸国と欧米諸国とを巻き込む紛争が続いていく ととなった。この講義では、そのパレスチナ/イスラエル問題を世 界史的視点から学ぶことを通して、世界政治の構造的理解を深める とともに、「国家」や「民族」の本質やその変貌をも考えていく。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 授業形態は講義である。結婚、家族、労働に関わる諸現象を取り あげて、ジェンダーがどのように私たちの生活に関わっているのか ジェンダー論a を見る。また、ジェンダー論の射程が男性にまで及んでいることを 実感できるよう男性性研究の成果についても論じる。獲得目標は、 受講者の人生設計に役立つ知識を獲得し、市民としての公正な感覚 を身につけることである。ディプロマポリシー「1.建学の精神」 「日本国内外に生起する現代的諸問題の解決に資する専門知 識と理論」の理解を通じて、上記の目標が達成される。 授業形態は講義である。性別、性欲、性行為など、私たちは何ら ジェンダー論b かの形で「性」と関わりながら生きている。そこで、この講義では 大学生のための性教育を行う。はじめに、教養編として、大学生な ら最低限おさえておくべき性にまつわる知識を身につける。「常識」と思われていることの多くが、現代に特有の・性的多数者に とってのそれでしかないことを理解する。次に、実践編として、 デートDVを防ぐにはどのようにしたらよいかを考える。また、世 に流布する性暴力についての思いこみを批判的に検討する。そし て、性的多数者による少数者への有形無形の抑圧について考察す る。獲得目標は、あらゆる「性」をめぐる現象や経験に対して「より良き判断」が下せるようになることである。ディプロマポリシー 「日本国内外に生起する現代的諸問題の 「1. 建学の精神」中の、 解決に資する専門知識と理論」の理解を通じて、上記の目標が達成 される。 本授業では、20世紀後半からの情報環境の発達を、社会状況やメ ディア・テクノロジーの発展、両者についての諸論考から確認・検 情報社会論a ネット社会と呼ぶのがふさわしい現在の社会を取り巻く情報 環境の成り立ちを多角的な視点から理解する。そのうえで、 や「IoT」といった新しい技術、概念が登場する2020年代の情報社 会・情報環境の「今」と向き合い、「これから」を過ごしていくた めに必要となる基礎的知識とリテラシーを身につけることを目的と した講義。 教 合 養 教 講 本授業ではまず、過去から現在にいたる情報技術と環境の変遷 育 義 情報社会論b それぞれの時代に生じた発達の過程に影響を与えた「欲望」や 科 科 Ħ 「願い」に注目して整理、確認する。このような時代特有の情報環 境の栄枯盛衰を踏まえて、これからの新たな情報環境に根ざした ネット社会において、各種のサービスを提供する企業や組織、他方 でそれらを享受する私たちが、それぞれの立場で求められるリテラ シーを涵養し、各種判断の基盤となる知識を深めることを目的とし た講義 都市と市民a 近代日本の大都市は、それぞれの時代における課題に応じた大都 市政策により、その姿を変えてきた。本講では、東京を中心に、明 治以降の各時代における都市政策と都市計画の形成と実施の過程を その時代背景と政策課題を歴史的に検討する。これにより、我が国 の都市政策がそれぞれの時代の政策課題にどのように対応してきた か、またそこで残された課題は何かを明らかにする。さらに、近年 における日本の都市が直面する諸課題(少子高齢化、空き家の増 加、防災等)についても取り上げる。 現在の日本の都市は、いくつかの新たな課題に直面している。こ 都市と市民b うした課題としては、少子高齢化・人口減少、グローバル化、「持 続可能な都市」(サスティナブル・シティ)、防災などがあげられ 少子高齢化・人口減少により、都市の縮小や都市構造のあり方 が問題となっている。グローバル化に伴う脱工業化・情報化など は、東京など大都市のあり方に変化を引き起こした。一方で、 続可能な都市」などの近年の都市に関する諸概念は、前記の諸課題 の解決に一定の示唆を与えるものである。また、阪神淡路大震災、東日本大震災などの経験を経て、日本の都市を考える上で、防災の観点は欠かせないものであることは明らかである。さらに、上記の課題を考える際の参考として、米国の都市計画制度の事例を紹介す る。また、コミュニティにおける上記の課題への対応事例なども紹介する。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 平和学は、戦争をはじめ、20世紀において人類の存続や人権の確保に重大な影響を及ぼす現象が現れ始めたのに対応して、既存の学 平和学a 問の在り方を問い直し、人類社会の持続可能性を確保し、 人権の侵 害を防いで公正な社会の建設に役立つような研究・教育を目指し て、新たに形成された分野である。19世紀から20世紀にかけて、特 科学技術分野における学問の長足の進歩を反映して、豊かで便 利な社会が出現したが、同時に、そのような科学技術文明は、第一 次世界大戦に見られるように、逆に文明社会の存立すら脅かすよう な破壊性をも帯びるようになった。このような現象は、戦争のみな るのであった。このようながない。 らず、産業社会の進展に伴って生起する環境破壊や格差・貧困、差別や人権などの多様な問題群にもみられる。平和学は、そのような問題群の解決に資する研究・教育を目指す。平和学aは、主に戦争の 問題を扱い、特に日本の近現代史における戦争と平和の問題に焦点 を据える。 平和学b 平和学は、戦争をはじめ、20世紀において人類の存続や人権の確 保に重大な影響を及ぼす現象が現れ始めたのに対応して、既存の学 問の在り方を問い直し、人類社会の持続可能性を確保し、人権の侵 害を防いで公正な社会の建設に役立つような研究・教育を目指し て、新たに形成された分野である。19世紀から20世紀にかけて、特 科学技術分野における学問の長足の進歩を反映して、豊かで便 利な社会が出現したが、同時に、そのような科学技術文明は、第一 次世界大戦に見られるように、逆に文明社会の存立すら脅かすよう な破壊性をも帯びるようになった。このような現象は、戦争のみな らず、産業社会の進展に伴って生起する環境破壊や格差・貧困、差 別や人権などの多様な問題群にもみられる。平和学は、そのような問題群の解決に資する研究・教育を目指す。平和学は、戦争以外の テーマ、すなわち、環境・防災、貧困・開発、格差・人権の問題を 扱う。 合 養 福祉論a 福祉論a では、日本の高齢者福祉の中核的制度である介護保険は 教 講 焦点を当て、介護保険制度創設の目的、介護保険サービス利用の申請からサービス提供に至るプロセスを具体的に体系的に学習する。 育 義 科 次に、豊富な在宅サービスのメニューを紹介し、 -つ一つのサート スが持つ課題を明らかにする。介護老人福祉施設などの施設サービ スの学びの中では、喫緊の課題である介護人材不足の現状と課題に ついて学び、持続可能な介護保険制度を展望する。 福祉論bでは、スウェーデン、韓国、台湾、日本における介護の在 福祉論b り方をグローバルな視点から比較分析する。介護サービスの提供原 理には、措置方式と保険方式の2つが存在する。前者はスウェーデン と台湾の原理であり、後者は韓国と日本の原理である。4つの国の 介護サービスの提供の仕方の強みと弱みを具体的に明らかにする。 加えて、要介護高齢者及び認知症高齢者の人権を守るという視点か ら各国の高齢者虐待防止法に焦点を当て、高齢者虐待の発生率、虐 待のタイプの違い、虐待の頻度、発生防止の対策などについて、比 較分析を行う。 今日的な我々の社会や生活においては、企業の経営(マネジメン 経営学a ト) 活動を抜きには語ることができない。そうした企業の経営 (マネジメント) 活動は、「市場」という場において営まれ、我々の社 会と生活のあり方そのものに非常に大きな影響を与え続けている。 講義では、主として、そうした市場における企業の経営(マネジ メント)活動を概観していくとともに、経営学の基本的なフレーム ワークや理論を学んでいきたい。また、企業の経営戦略及びマーケ ティング戦略などの事例も紹介し、現実の企業(マネジメント)活 動の諸相にも触れていきたい。

5 授業科目の概要

(コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

	科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義科目	経営学b	今日的な経営学は、企業の経営(マネジメント)にとどまらず、 様々な組織(医療・福祉・行政・地域など)の経営(マネジメン ト)にも拡大している。そうした経営(マネジメント)活動は、広 く「市場」という場において営まれ、我々の社会と生活のあり方そ のものに大きな影響を与え続けている。 講義では、「経営学a」も参考にしながら、経営学のフレームワー クと理論を学ぶとともに、市場における企業や様々な組織(医療・ 福祉・行政・地域など)の経営戦略や新たな経営(マネジメント) の動向を概観していく。また、企業や様々な組織の経営戦略及び マーケティング戦略などの事例も紹介し、現実の企業(マネジメン ト)活動の諸相にも触れていきたい。	
		教養ゼミ	専任教員が各々の専門を活かした多彩なテーマ・素材にそくして、少人数での双方向的な授業を行ない、多様な事象への関心を喚起しつつ、思考力や文章読解力、情報の調べ方、表現力、コミュニケーション能力等を教授する。具体的には、文献の読解やディスカッション、ディベート、ワークショップ等の様々な形態をとりながら、批判的に思考すること、文献を丁寧に読むこと、様々な情報を自分で調べること、文章を書き発表すること、身体を動かし解放すること、他者とコミュニケートすること等々の楽しさや魅力を実感させることにより、大学における学習の動機づけを行うとともに、2年次以降のより専門的な学びへの橋渡しを行う。	
40	教養演	総合教育ワークショップ	少人数の定員を設定したクラスで双方向性を担保した授業を実施し、学生の学びに対する動機付けを行うことを目的とした授業である。具体的には、グループワークや討論、プレゼンテーション、振り返りなどのアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れた授業を行い、批判的な思考、文献の精読、情報の検索と整理、他者とのコミュニケーションなど、大学での学びに直結する力を養成し、様々な演習科目への橋渡しを行う。	
総合教育科目	習科目	英語で学ぶ教養	英語を用いて実施されるゼミ形式の授業である。「英語を学ぶ授業」ではない「英語で学ぶ授業」として、学生に英語を道具として様々な分野の学問を学ぶ機会を提供する。またこの授業において、学生が実際に英語を用いることを通じて語学力を維持・向上させるとともに、英語を入り口にしてこれまで触れることのなかった学問分野に接することも期待される。	
		総合教育演習	2年次から4年次までの学生を対象として、多様な専門分野に属する教員が、自らの専門的知識を踏まえた演習形式の授業を実施する。文献購読、個人あるいはグループ形式での研究発表、演習参加者同士の討論、レポートの執筆などの作業を通じて、様々な分野に関する知識を得て理解を深めるともに、大学生同士で切磋琢磨し、コミュニケーション能力を向上させる機会を提供する。	
		総合教育研究	4年次生が3年次までの学習成果をふまえ、学生が自主的に選んだ 主題について、その主題に近い専門的知識を有する教員の指導のも とに論文を完成させる。	
	留学生向けべ	日本語基礎セミナーIa	留学生が大学生活を円滑に送るためには、日本語能力の向上に加えて、大学生としての「ふるまい」に対する理解が必要である。この科目では、日本語教育分野の知見をもとに、留学生が外国語として日本語を習得するときの様々な課題について演習形式で学び、大学生に求められる日本語力を養成する。また、大学生活に必要な知識、情報についても、演習形式で学ぶ。レポートの書き方、プレゼンテーション技法などを、留学生教育の視点から扱う。	
	ハーシック科目	日本語基礎セミナーIb	留学生が大学生活を円滑に送るためには、日本語能力の向上に加えて、大学生としての「ふるまい」に対する理解が必要である。この科目では、日本語教育分野の知見をもとに、留学生が2年次以降の「ゼミ」で積極的に学ぶために必要な日本語を、コミュニケーション行動という観点を取り入れた演習形式で学ぶ。日本語での資料の入手、読解、レジュメ作成、発表、ディスカッションなど、「ゼミ」で必要な「ふるまい」を留学生教育の視点から扱う。	

5 授 業 科 目 ഗ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 日本語基礎セミナーⅡa 大学入学時の留学生の日本語能力には個人差があり、2年次以降も 引き続き、外国語としての日本語を学ぶ必要があると自覚している 留学生が、一定数存在する。この科目では、そのような留学生を対 日本語教育分野の知見をもとに、読解と文章表現を中心と した総合的な日本語力を演習形式で養成する。日本文化、社会、経 生活等の様々なテーマから、留学生教育の視点で選んだ生教材 (新聞、雑誌、新書、ネット情報等) を通じて、実践的な日本語を 学ぶ。 日本語基礎セミナーⅡb 大学入学時の留学生の日本語能力には個人差があり、2年次以降も 引き続き、外国語としての日本語を学ぶ必要があると自覚している 留学生が、一定数存在する。 この科目では、そのような留学生を対象とし、日本語教育分野の知 見をもとに、総合的な日本語力を演習形式で養成する。文法、語彙等から文章の構成、事柄の定義、根拠の明示、など、留学生教育の担点で選り、が帰席に、原日を担い、東田が日に、たが、留学生教育の 視点で選んだ幅広い項目を扱い、専門科目につながるレポートや研 究計画作成を通じて実践的な日本語を学ぶ。 日本語基礎セミナーⅢa 大学入学時の留学生の日本語能力には個人差があり、2年次以降も 引き続き、外国語としての日本語を学ぶ必要があると自覚している 留学生が一定数存在する。この科目では、そのような留学生を対象 とし、日本語教育分野の知見をもとに、大学での講義をより深く理 学生 解するために必要な現代日本社会の基礎的知識を日本語で学ぶ。 こ日本の地理的分野を出発点として、留学生教育の視点から、演習 形式で理解と表現の日本語力を養成する。 向 総 け 合 教 ベ 1 育 科 シ 日本語基礎セミナーⅢb 大学入学時の留学生の日本語能力には個人差があり、2年次以降も ッ 引き続き、外国語としての日本語を学ぶ必要があると自覚している留学生が一定数存在する。この科目では、そのようなななりという。 目 カ 科 とし、日本語教育分野の知見をもとに、大学での講義をより深く理 Ħ 解するために必要な現代日本社会の基礎的知識を日本語で学ぶ。 に日本の歴史的・文化的分野を出発点として、留学生教育の視点か ら、演習形式で理解と表現の日本語力を養成する。 留学生が卒業後のキャリアを考え、自ら決定するためには、大学 のキャリア関連科目で学ぶと同時に、卒業後の日本語運用能力を含 めた、留学生に固有の課題について学び、深く考察することが必要 日本語基礎セミナーIVa である。 この科目では、日本語教育分野の知見をもとに、留学生が、卒業 後、日本語を用いてビジネス社会で活躍するために必要な知識を演 習形式で学ぶ。留学生教育の視点から、日本語の敬語、敬意表現、 配慮表現など、社会人として必要な日本語とその周辺知識を扱う。 留学生が卒業後のキャリアを考え、自ら決定するためには、大学 のキャリア関連科目で学ぶと同時に、卒業後の日本語運用能力を含 日本語基礎セミナーIVb めた、留学生に固有の課題について学び、深く考察することが必要 後、日本語を用いてビジネス社会で活躍するために必要な知識を演 習形式で学ぶ。ビジネス日本語能力テスト(BJT)の受検を必須 とし、社会人として必要な日本語とその周辺知識を扱う。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 アカデミック・コンパス 本科目は、コミュニケーション学部における学びの概要を知ると 同時に、学部の専任教員の教育研究活動に直接に触れることで、 れぞれにとっての大学での4年間の学びのあり方をデザインする力 を養う初年次授業である。この授業は大きく以下の2つのテーマから なる。まず、新しい環境での生活のリズム、今後のキャリアへの視 点も含めた4年間の学びを考えていくためのヒントを提供する授業 回。次に、学部での学びの広がりを意識するために、各専任教員が ゲストとして自身の研究領域や担当科目、演習の様子を学生と共有 する授業回である。初年次の前期に開講されるこの授業に参加する ことで、学生は高校生の間に抱いていた漠然とした学びへの期待 より自身の現在の関心、将来の進路へ即したかたちでイメージ できるようになる。 キャリアデザイン入門 ライフキャリアの視点にたち、大学での学びを卒業後の仕事人生 こつなげていくための意識を高め、自身の大学生活や就職活動など をデザインする。長い仕事人生というライフキャリアの視点から、 自分のキャリアを自覚し、主体的にキャリアデザインするための心 構えと方法を実践的に学ぶ。職業選択や就職活動のことだけではな カリキュラムを改めてよく理解して学習計画を立案するなど大 学生活全般をデザインする。授業形態は講義が中心となるが、履修 者自身のキャリアデザインに取り組む授業であるため、学生の主体 的な参加も必要となる。 キャリアデザイン発展 本科目は自らのキャリアを考え、構築のための考え方や手法を習 得することで、キャリア形成に対する考察を深め、問題を発見し、 分析・解決する実践的な知識や能力を身につけることを目的とする 科目である。このため講義に加えて学生によるエクササイズを通じ て、キャリアに対する考えを深めることを目指す。エクササイズとしては個人ワークシートの作成のほか、少人数のグループディス 進 ャ リア カッションを通じて、自らのキャリアに対する考え・アイディアを 層 表現し、 伝達していくコミュニケーション技法を身につけていく。 科 科 人生100年時代のキャリア形成を視野に、自己の内的キャリアとキャ Ħ Ħ リア選択の多様性への気づき、更に主体的なキャリア形成への活動 を促す授業である。 職業選択とキャリア形成 長期的なキャリア形成を考えていくために、さまざまなキャリス パスについて知ることを目的とした講義科目である。ゲスト講師と して多くの卒業生から話を聞くことによって、学生自身が自分ごと としてキャリアに対する考えを深めることが目標である。ゲスト講 義では、講師が自身のこれまでのキャリア形成過程について紹介 し、業界および企業研究を行う。これを通じて仕事や職業とは人生 にとってどのような意義があるのか、就職活動とはそのキャリアの 中でどのような意義があり、どんな心構えで向かうべきなのかを考 え、各学生の社会人基礎力に対する意識を向上させるための講義で ある。 男女雇用機会均等法が制定されて以来、育児休業法や女性活躍推 ジェンダーとキャリア形成 進法の制定など、働く女性をとりまく環境は大きく変化をした。と ころが、女性活躍に関わる指数には、その成果がなかなか現れてい この現状を踏まえ、「女性のワークキャリア&ライフキャリ アとビジネス社会」をテーマに、広い意味での日本における女性の キャリアについて、歴史的背景、他国との比較、ダイバーシティ& インクルージョン、 アンコンシャスバイアスといった様々な視点か したがって、男子学生の履修も奨励し、講義や対話を織り交ぜ て授業を実施する。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 経済活動はグローバル化し、さまざまな文化に生きてきた人たち との恊働の機会が拡大している。また終身雇用と年功序列をベース 雇用の変化とキャリア形成 とした日本企業の雇用慣行も揺らぎ、エンプロイヤビリティ(雇用 される能力、労働市場で通用する能力) が常に求められるように変 でいる能力、 方側川場 (週出り る能力) が帯にぶめられるように多 化していくだろう。 さらに情報技術の進展により職務内容も変化し ていく可能性が高く、働く人は自己責任で主体的にキャリアを形成 することがこれまで以上に必要な環境が生まれている。 したがって、雇用や産業構造に起きている変化、人工知能技術の雇 用や仕事への影響などの世界的トレンドと日本での動きについて知 主体的にキャリアを形成していくための方法、そして非常に大 事なファーストキャリアの選択前に準備しておくべきことを学ぶ。 この授業は、講義とグループワーク、ディスカッションを織り交ぜ た形態を予定している。 インターンシップ 夏季休暇期間を利用した企業・団体での10日間ほどの研修を中心 に、事前の交渉・調査と、研修実施後の報告発表を行う、少人数の 授業である。研修活動を通して社会の現場を体験し、そこから、は たらくことの意味を考える。また、研究分野と研修先との関係に よっては、研究分野についての知識を確認し、その見識を深める目 的もある。企業が公募するインターンシップのように就職に直結す るものではなく、調査と経験をもとに報告と討論を行う、演習形式 の授業である。 この授業は講義、個人およびグループでの情報収集・整理・発表 経済記事の読み方 という形態で進める。 授業のなかでは、大きく2種類の経済記事を扱う。 一つは企業決算 に関わるもので、現在と過去のものを比べその企業の変化を、成 長、衰退、多角化、集中、グローバル化、現地化など多面的な観点 から読み解く。当該企業に対する経済記者の解説などもあわせて読 むことで、理解を深める。もう一つは業界ごとのトレンド、あるい 進 は採用も含む人材開発を扱った長めの解説記事である。何が社会的 IJ 価値、あるいは経済的価値として、現在において重きを置かれているかを理解する。これらはミクロ的な個別企業を見る目とマクロ的 層 ア科 科 な業界、雇用動向を見る目を鍛えるための構成で、授業全体として は就職活動を前にした経済情報の基本的な読み解きスキルをつける ことを目的としている。 本授業は講義とグループ活動(情報収集・整理・検討・プレゼン 企業・業界分析 ーション)によって、自らの志望する仕事を明確にし、就職活動 を順調に進行させる力を身につけることが目的である。 具体的には「就職とは何か」「ライフワークバランス」 界や企業の分析手法(上場/非上場、事業報告書や財務諸表の見方、 「グルー SWOT分析等)」 「企業風土検討 (CSR活動やSDGs対応)」 活動の方法」などを学んだうえ、実際にグループ活動や個別活動を 行い、プレゼンテーションを繰り返し実施する。プレゼンテーションを繰り返し実施する。プレゼンテーションを繰り返し実施する。プレゼンテーション能力の向上はそのまま就職試験(面接やグループ討論)対策にも つなげることができる。 キャリア基礎講座(数的処 本講座は、キャリアデザイン科目の基礎講座の一つである。社会 人としての第一歩となる就職先を決めるために、就職試験等で試さ 理) れる基礎学力を確認し、さらにはその能力を高めることが本講座の 目的である。 就職試験の第一段階において、言語能力検査および非言語能力検 査が行われることが多い。本講座では、後者の非言語能力検査につ いてその能力の現状を確認したうえで、より高めるための講義を行 非言語能力検査では、基礎的な数学の運用能力に基づいて、 的な数的処理能力や論理的思考力などが調べられている。本講座で 就職試験における総合適性検査の中の代表例として、 SPIの非言 語能力検査に関するいくつかの問題を中心に取り上げて解説する。 加えて、就職力を高めるために、単に計算力を身につけるだけではなく、論理的かつ正確にものごとを整理し理解するための思考能力 の向上を目指している。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本科目は、社会人として生活していくうえで必要となる基礎的な 文章表現の力を育成する演習形式を中心とした授業である。学生は キャリア基礎講座(文章表 現) 就職活動を通じて、また就職後も数多くの場面で、言葉を用いて論 理的に表現、説明することを求められる。そこで、 授業のなかで は、論理的な文章の組み立て方、また個々の文章における適切な語 進 ż 彙の使い方等を、時に講義を通じて知識として学ぶと同時に、複数 IJ 回課される課題を通じて教員、学生間で議論しながら体験的に身に 層 ア つけていく。具体的には、エントリーシートといった就職に直結す 科 科 る文章から、社会人として必要なビジネスメール、プレゼンテーション等数多くの文章を書く機会が与えられることで、自身の文章 表現の癖を客観的に理解し、それぞれの状況に相応しい適切な文章 Ħ 目 を書く力を獲得することを目指す。 コミュニケーション学入門 様々な学問体系の中にある、コミュニケーション論の基礎を学ぶ 講義科目である。「コミュニケーション」についての基礎的な知識 や考え方について、コミュニケーション学部の学生として、理解を 深めることを目標としている。「コミュニケーション」というこ はは極めて幅広く使われているものであるため、様々な学問における「コミュニケーション」論を検討していく。特に対人コミュニケーション、マスメディアを媒介とするメディアコミュニケーション、ケータイやネットなどのオンライン環境でのコミュニケーショ ン、組織コミュニケーション、企業が主体となっておこなう広告広 報というコミュニケーション、異文化コミュニケーションについて 検討していく。 当該科目では、社会調査の意義やさまざまな社会調査のあり方に 社会調查入門 ついての基本的事項を講義で解説する。具体的には、社会調査の歴 史や社会調査の目的、調査方法論や調査倫理、調査の種類や実例、 公的統計調査などについて学ぶ。また、調査票調査やフィールドワーク、インタビュー、資料やデータの収集から分析を含む社会調 査の諸過程に関する基礎的な事項も学ぶ。この授業を通じて、社会 やコミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・ 解決をする能力を涵養する。 本講義では社会環境下における人間の心理・行動のメカニズムを 社会心理学 検討する。具体的には内容を「社会的認知」 「自己」および「対 人・集団・社会過程」という3つの領域に大別した上でそれぞれ、 人が社会環境をいかにして認識・評価しているのか、それがどのよ うな自己過程を前提としたものであるのか、そしてこれらに基づき 人がどのように社会環境と相互作用しているのかについて、社会心 理学の基本的な理論および実証的知見を概観することで理解を深め 部 ていく。社会心理学はコミュニケーションについて学ぶ上で重要な 共 義 基礎の一つとなるため、この先で発展的に学ぶテーマおよび現実社 科 诵 会の諸課題とのつながりを意識して講義を行う。 科 日 Ħ メディアリテラシーは、さまざまなメディアを通じて送られる メッセージを「読み解く」こと、そして、自前のメディアを駆使し てメッセージを発信することの両面からなる。この講義ではメッ メディアリテラシー セージの受信、解読能力を高め、発信能力の涵養につなげることが なにかの映像を見て感情が動かされることは日常的にあるが、そ の内容をきちんと言語で表現するのは容易ではない。そのために は、基礎的な概念を理解し、表現を具体的に読解のレッスンを重ね る必要がある。イメージはつねに多義的だが、それを言語化するこ とではじめて、私たちはイメージの意味や意義について議論をする きっかけをつかむことができる。 この授業では、検討対象とする表現を一点一点を取り上げて、そ の形式的な構造を分析し、その意味を考える作業が組み込まれる。 日頃の対人関係から就職、外国人との交流といった場面までさま コミュニケーション心理学 ざまな機会で「コミュニケーション能力」が重要視されている。コ ミュニケーション能力はなぜ必要とされるのか。そして、コミュニケーション能力とはどのような能力を指すのか。この授業では、コ ミュニケーションの目的を「良好な対人関係の形成・維持」と 題達成」の2つの観点からとらえ、それぞれの場面で必要とされる コミュニケーションに関連する要素や概念について、心理学におけ る実証的な知見に基づき、紹介していく。また、講義形式ではあるが、授業内で異文化交流も視野に入れた実際のコミュニケーション 場面を想定したアンケートや模擬実験などを用いて、コミュニケー ションのプロセスをいかに研究していくかも体験する。フィード バックも、都度行っていく。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業は、人間がお互いと意思疎通をするために必要不可欠な 言語についていくつかの観点からその性質を探る、主として講義形 現代言語学 式で実施する授業である。主に日本語を対象にしながら、言語音の 特性とは何か、語とは何か、語と語をどのように結びつけどのよう な意味に繋がるのか、といったことを見る。また、日本語を英語そ の他の言語と比べた場合、どのような相違点・類似点があるかについても考察する。さらに、日常的にあまり馴染みのない言語につい て触れ、人間の言語の可能性について触れる。 本科目は、メディアの変容を切り口に現代史を考える講義科目で 現代メディア史 ある。21世紀に生きる我々のメディア環境は、どのような経緯で形 成され、どのような問題をはらんでいるのだろうか。本講義では、 主に電気通信時代が到来する20世紀日本のメディア史を「大衆化」 や「総力戦」、「システム社会」といったキーワードに沿って論じていく。歴史的背景を理解することで現代社会を批判的に読み解 き、メディア社会の未来を展望する手がかりを得ることを目標とす る。 比較メディア史 近現代のメディア社会を「比較」によって考える講義科目であ る。人、モノ、情報がメディアを介してグローバルに移動する現代 社会はいかにして形成されてきたのか、20 世紀初頭の第一次世界大 戦を一つの起点として論じていく。異なる時代のメディア社会、異 なる地域のメディア史を「国民国家の形成と展開」や「大衆化」を軸に比較検討することで、自身の生きる情報環境を相対化し、共同 体とメディアの関係性やコミュニケーションの変容について理解を 深めることを目標とする。 部 共 義 通 科 科 Ħ この授業は、コンピュータ同士、コンピュータと人、人同士のコ コンピュータコミュニケー Ħ ミュニケーションの違いを意識しながら進める。まず、 ション コンピュー タ同士の場合は記号をいかに速く正確に伝えるかが基本となる。と ころが人が参加するコミュニケーションでは意味が重要な要素にな したがって、コンピュータ(人工知能)は意味を理解するとい う方向で発展しており、その歴史や技術の基礎知識を授業ではとり あげる。また人同士のコミュニケーションであってもあいだにコン ピュータが入ると、人は制約を受けたり、逆に対人ではできなかっ たことが可能となる。このようなコンピュータを介した人と人のコ ミュニケーションに関する知見も扱う。この授業は講義を中心に行 う予定である。 実際の広告作品を素材にした「現代広告論」の授業。グローバル 広告論 な視点を大切にしており海外の作品も数多く紹介する。1990年代半 ばからのインターネットの普及以降、広告コミュニケーションはそ の構造と表現を大きく変化させた。オンラインメディアは既にマス メディアの中心的存在となり、今や広告キャンペーン成功の秘訣は いかに付加価値の高い情報を魅力的な表現で発信できるかだけでは なく、いかに人々と共有できるユースフルな仕組み (システム) を 作れるかにかかっている。そんなイマドキの広告を研究しそれをベースにして広告のイマカラを考えていく、スペキュラティブな発 想力を刺激するための授業である。もちろん、イマドキを考えるに あたってはイママデの作品の十分な研究も必要となる。将来、企業 等の広告、広報に携わりたい人にとって欠かすことのできないブラ ンディングのための表現を思考する「広告クリエイティブ論」の側 面もある。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 プレゼンテーションを通じて「伝えたい事柄を分かりやすく、論 理的かつ十分な論拠を提示して説明する」、「お互いにとって有益 プレゼンテーション論 であることを納得してもらい、提案事項を受入れてもらえるように 他者を説得する力」を養う。プレゼンテーションを積極的に試みる 態度、その企画から実施後の振り返りまでの、プレゼンテーション に必要な全プロセスを適切に実施可能な能力、聴衆との適切なコ ミュニケーション能力の獲得が授業の到達目標となる 序盤はプレゼンテーションへの理解と多数の聴衆に対して適切に話 所強はアレビンテーションへの程解と多級の総球に対して必要がに対していました。 をするための講義と基礎演習、中盤以降はプレゼンテーション実践のための説明と演習を行う。どのような条件や状況においてもある程度対応可能だと考えられる、規定の論理構成パターンに従ったプレゼンテーションの実施を通じて、プレゼンテーションの基礎を学ぶと同時に、本授業以後の「自分らしい」プレゼンテーションへの 発展につなげてゆく。 アート論 現代美術は、その表現手法の一つ「インスタレーション」に代表 されるように、限定された面や物体のみを対象として表現/鑑賞する のではなく、環境を含め、全てを関係の中でとらえる考え方に特徴がある。これは、更に社会全体を関係の中でとらえる思考に至る。 この「拡大された芸術概念」をもとに、具体的な芸術作品の鑑賞か ら開始して、その社会的な機能に注目し、表現の自由、性差別、ブ ライバシーなど、様々な問題に言及する。それは、すなわち、芸術 が社会において果たすコミュニケーションに関する問題についての 視点を提供することにもつながる。 義 科 「地域文化」という用語は、文脈によってかなり異なる意味合い 用いられることもあるが、この講義で対象とするのは、比較的小 地域文化論 規模な、地理的に局地的社会で展開されている「文化」現象のこと である。他の「地域」とは異なる特色をもってある程度以上永続的に再生産されている「文化」が、ここでいう「地域文化」ということになる。この講義では、「地域」「文化」など、この講義の中心となる概念についての検討を通して、地域文化論の基礎的な対策の表現を表現るについての検討を通して、地域文化論の基礎的な対策の表現を表現されている。 部 共 通 科 の理解を深めるとともに、専ら日本国内に具体的な例をとりなが H ら、現代における各地域の文化現象がどのような変化の波にさらさ れているのかを、講じていく。それを通して、現代における身近な 地域文化の多様性や、それを支える技術や社会関係について理解 自らの思考の道具としてこうした諸概念や知識を活用できるよ う促していく。 ヴィデオ文化について、これまでの歴史を振り返り、そこから未 来を考える。特に、ヴィデオアートとパブリックアクセスのムーヴ メントは、どちらも、既に巨大な存在であったテレビメディアに対 映像文化論 これを批判する表現(運動)として開始された。この2つの潮 流の日本における展開を、作品や記録によって確認する。それは同 時に、個人がヴィデオを記録できるようになった1960年代末から始 まり、現在のインターネット配信が隆盛を極めるまでの状況を俯瞰 する作業でもある。 初年次教育として、大学での学びをより実り豊かなものにするために必要な習慣を確立し、基本的な学習スキルを習得することを目 フレッシャーズ・セミナー のに必要な首項を催立し、 左午りは十日ハイルで日内フェーに日標とする。大学での学びは、正解のある問題を解いたり、 知識を増やしたりするだけでなく、 問題そのものを発見したり、 既存の考えを批判的に検討したりすることにある。 そうした 大学の学びへと誘を批判的に検討したりすることにある。 そうした 大学の学びへと誘 うために、大学内外での多様な出会いを提供し、学生同士が協同す 習 る機会を適宜設けながら、学生自ら思考を深めていくように習慣づ 科 けていく。また、文献の検索・入手、資料の批判的な読解、発表 (プレゼンテーション)、対話や議論、レポートの論述などの基本 Ħ 的な学習スキルを実際に経験しながら身につける。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 フレッシャーズ・ヤミナー 両輪で機能するメディア社会学科と国際コミュニケーション学 オムニバス方式 科、それぞれの専門課程の理解を深めるためのオムニバス式演習科 目である。異なる専門領域を有する四人の教員が学科横断的に各三 回を担当し、基本的にPBL型で進める。グループ・ワークやプレゼン テーション課題も取り入れ、情報収集及び発表スキルの習得や、自 ら問題を提起し、他者と議論するコミュニケーション技術を養うこ とを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (28 田村和人/3回) メディアの産業論をテーマに授業を行う。 (30 山下玲子/3回) 社会心理学を背景としたメディア研究をテーマに授業を行う 11 松永智子/3回) メディアの歴史、エスニックメディアをテーマに授業を行う。 (12 光岡寿郎/3回) 移動とメディア、メディアと空間性をテーマに授業を行う。 この12回に加えて、オリエンテーション、中間まとめ、リフレク ションの15回で授業は構成される。 科 演習 本授業は、2年次から4年次の学生を対象に、15人程度を上限と Ħ した少人数のクラスで、専門的な知識と卒業研究へとつながる研究 手法を身につけることを目標とする。担当教員の専門性により具体 的な内容は異なるが、主にメディアの特性や、メディアを通じた社 会的影響を分析、評価する能力、グローバル化の進む現代社会にお 云的影響を分析、計画する能力、クローバルにの過ぎなれれ云における他者や他文化との対話力を養成することで、コミュニケーションに関わる事柄について、問題を発見し、分析・解決する能力を高める。同時に、その成果を発表したり、具体的な論文、作品等にまとめることで、自らの考えがの習ばなり思いません。 部 いくコミュニケーション技能の習得を目指す。 共 诵 科 卒業研究 演習で培った知識や論理的思考能力、及び自身の考えを創造的に 発信する力を生かして、4年間の学びの集大成として学生が取り組むのが卒業研究である。メディアや、それに関わる企業、組織、加 Ħ えてメディアが発信する情報が流通するグローバルな社会を対象と して、コミュニケーションに関わる事柄について自ら課題を発見 適切な手法を用いて分析、解決を試み、その成果を卒業論文と してまとめる。同様の領域を対象として、演習、加えて実習系の ワークショップで学んだ制作技術を基に、自身のアイデアを創造的 に表現した卒業制作もまた、その成果として認定される。 本科目は、身近なメディアを利用した課題制作を通じて、自分を コミュニケーションワーク 表現する力を伸ばすことを目指すワークショップ形式の初年次の授 ショッフ 業である。現在のメディア環境では欠かせない基礎的な技術である 「画像データの編集」「印刷物の編集」「オンラインでの作品の公開」といったメディアの運用を一通り経験し、二年次以降のメディア制作系の授業の基盤となる力を培う。また、グループでの制作や成果物についての意見交換を通じて、同様に二年次以降履修が可能 ワ になる、演習、ワークショップといった少人数授業で必要とされる 他者との対話力を向上させるのも本科目の目標である。 ク シ コミュニケーションの分類の仕方として、 身体表現ワークショップ 「対面コミュニケー 3 現 //非対面コミュニケーション」という考え方がある。一般 ション ツ に、前者の中心をなすのは会話を通じた言語的コミュニケーション プ 一方で私たちは会話をする際に表情や身振りといった身体的 科 な手がかりを通じて円滑なコミュニケーションを行っている。この Ħ ような「身体」にかかわるコミュニケーション能力をワークショッ プ形式で学ぶのが本科目である。担当教員に加えて、専門分野を持 つ外部講師を招くことで、例えば「歌うこと」「踊ること」、さら には「身体とメディアとのインターフェイス」等に着目したアク ティビティに参加することで、自身のアイデアや発想を創造的に伝 達する力を養う。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本科目は、様々なメディアを利用した作品制作を通じて、自分を 表現する力を伸ばすことを目標としたワークショップ形式の授業で メディアデザインワーク ショップ ある。本学科では、初年次に「コミュニケーションワークション プ」で基礎的なメディア運用能力を獲得するが、2年次以降、よ 専門的なメディア技術に関わる知識と運用能力を養うことが目標と されている。例えば、音楽、映像作品を制作するうえで必要な、機 材の知識、撮影(収録)の技術、素材を作品として編集する能力な どを学ぶことができる。このようなメディアにを活用した表現能力 は、今後も進む情報化社会のなかで必要とされるジェネリックスキ ルであると同時に、4年次の卒業研究の基盤となる。 日本語ワークショッフ 本科目は、自らの考え、着想を適切、かつ創造的に他者に対して 伝えるうえで、最も日常的に使っている「日本語(言葉)」を通じ て表現する力を養うワークショップ形式の授業である。言葉で適切 に表現するうえで前提となるのは、テキストを批判的、分析的に理 表 解する読解力である。受講生は、学術論文、小説、新聞記事といっ た幅広いテキストに触れることで文章の構造を学んでいく。 現 程で得られた、論理的な文章の構造、ストーリーラインの構成手法 を参考にしながら、授業の後半では実際に自身で文章を作成し、担 当教員、ピアグループでの意見交換を通じて、その内容をブラッ シュアップする。最終的には、卒業研究、就職活動、ビジネスの現 場で耐えうる文章表現能力を獲得することが本授業の目標である。 表現と批評 21世紀に入り、これまでマスメディアや大資本を中心に制作され てきた「表現物」は、インターネットやソーシャルネットワーク上 このようなメディア環境でますます求められてい に氾濫している。 るのが、自分が目にする作品がもつ表現手法を冷静に分析すると同 ワ 時に批判的に理解する能力、つまり批評する力である。本科目で は、文学、映画、音楽等の様々なジャンルの表現物に触れながら、 部 それぞれのジャンルに即した対象を分析する手法を学ぶ。同時に 共 3 その分析に基づいた批評文、及び批評的な手法を用いた作品を制作 通 ツ する力を修得することを目標とする。 科 プ 科 社会調査ワークショップ 1 当該科目では、講義と演習を通じて、社会調査によって資料や データを収集し、分析可能なように整理するための具体的な方法を 目 学ぶ。調査方法の種類とそれにあった調査目的、調査方法の決め方 や対象者の選定の方法の理解を深める。定量的調査、定性的調査の いずれかの方法について具体的に学び、その調査企画と調査準備の 過程や収集したデータの整理方法などを学習する。この授業を通じ て、社会やコミュニケーションに関わる事柄について、問題の発 見・分析・解決をする能力を涵養する。 社会調査ワークショップ 2 当該科目では、講義と演習を通じて、 社会調査の成果報告書や社 会調査法を用いた論文の読解に必要な基礎知識を養う。 は、定量調査の報告書・論文を中心にする場合は、記述統計データ の読み方やグラフの読み方、及びそれらの計算方法・作成方法の基 調 礎を学ぶ。定性調査の報告書・論文を中心にする場合は、さまざまな質的データの読み方と基本的な整理方法などを学ぶ。この授業を 査 通じて、社会やコミュニケーションに関わる事柄について、問題の 発見・分析・解決をする能力を涵養する。 当該科目では、講義と演習を通じて、統計的データをまとめたり 分析したりするために必要な記述統計学及び推測統計学の基礎的知 社会調査ワークショップ3 識を養う。具体的には統計的な社会調査、定量調査に必要な各種の 統計量や、確率論の基礎を学び、平均値の比較、クロス表の分析、 相関係数と相関分析・回帰分析などの各種の分析手法を学ぶ。ま た、因果関係と相関関係の区別や擬似相関の概念なども学ぶ。 この 授業を通じて、社会やコミュニケーションに関わる事柄について、 問題の発見・分析・解決をする能力を涵養する。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 当該科目では、講義と演習を通じて、定性的データ、質的データの収集や分析手法について学ぶ。定性的データ、質的データの収 社会調査ワークショップ4 集・分析方法には、参与観察法、フィールドワーク、インタビュー 調査などが含まれ、いずれかの方法を中心にして理解を深め、基礎 的な実習なども行う。また、内容分析や会話分析などの定性的データの分析方法についても学ぶ。この授業を通じて、社会やコミュニ ケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする 能力を涵養する。 私たちが生きる社会で起きている事象は、必ずしも制度的化され 社会分析ワークショップ 「社会調査」だけで測定できるわけではない。本科目は、社会調 査士資格を前提とした「社会調査ワークショップ」に加えて、身近 な社会的事象に即したアプローチから分析を行う手法を学ぶワーク ショップ形式の授業である。したがって、定量的なデータを手書きのイラストでおこすことでその類型性を伝える考現学的手法であっ 調 査 たり、データの分析結果を映像作品として報告するといった、授業 内で紹介される分析対象に応じた手法を学ぶことになる。この過程 を通じて、それぞれの分析手法に親しむと同時に、そこで得られた 視点から、社会調査法の持つ特徴を相対的に理解できるようになる ことも本授業の目標である。 社会調査実習 当該科目では、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の 連の過程における実践知識とスキルを学ぶ。そのために具体的な調 査方法として、定量的調査法・統計的社会調査法又は定性的調査 法・質的社会調査法を用いて、調査を実施する。調査の企画を行い、調査の実施・データや資料の収集、データや資料の分析、報告書の執筆を行う。これらの過程を通じて、社会やコミュニケーショ ワ ンに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決する能力を身に つける。 部 共 3 通 英語圏のニュースサイトを通してauthentic (真正) な英語で書か English Workshop A1(時事 ツ 科 れた情報に触れる機会が多い今日、入手できる情報を十分に理解し プ 活用できるに十分な英語力と入手した情報を批判的に読み解く力 目 科 (critical thinking) が求められている。この授業では、英語圏の 目 放送局や新聞社 (BBC, ABC, NBC, The Guardian, Times, Financial Times, New York Times, NZ Herald等)などが提供するサイトの記事を活用し、時事問題に関連した語彙力と読解力を修得し、グローバル化する社会の課題を英語で読み解くことを通して理解を深め、 今日われわれが直面している多様な問題について、時には批判的な 分析をし、自分の考えを英語で発信できる力を養う。 英語圏をはじめ世界中のメディアのサイトを通して、テレビやラジオ番組や動画などに容易にアクセスできる今日、それらのサイト English Workshop A2 (時 事英語) で提供されるauthentic (真正) な英語を正しく聞き取って理解で きることがこれまで以上に求められている。この授業では、BBCや 語 ITV、CNNやNBCなど英語圏の放送局が提供する音声あるいは動画を活 系 用し、英語母語話者が日常的に接する英語ニュースを聞き取り、そ の内容を把握して、英語での議論が可能となる話す力を養う。必要 に応じて補助教材も利用し、英語による時事問題への理解を深め る。 この授業は、CLIL(内容言語統合型学習)により、アメリカやイ English Workshop B1 (海 ギリスをはじめ英語圏の文化や社会について学び、多様な文化につ 外文化) いての理解を深め、さらにそれらの文化についてテーマを決めて英 語文献や海外のラジオ番組や関連サイトで情報を収集し、英語で ディスカッション、プレゼンテーションの作成ができる力を養う。 異文化理解のあり方について具体的な事例を基に学ぶとともに、英 語で講義を聞き理解するために必要なリスニングの力を中心として 英語運用能力を総合的に高める。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 English Workshop B2 (海 この授業は、CLIL(内容言語統合型学習)により、東アジアや ASEAN諸国などの文化や社会について学び、多様な文化についての理 外文化) 解を深め、更にそれらの文化や社会について特定のテーマを選び英 語文献や海外の関連サイトで情報を収集し、口頭でのプレゼンテー ション及び文章でレポートの作成ができる力を養う。英語を母語と しない話者が全て英語で行うこの授業では、World Englishesを体験 的に学ぶ。異文化理解のあり方について具体的な事例を基に学ぶと ともに、多様な英語を聞き取るリスニングの力を中心として英語運 用能力を総合的に高める。 English Workshop C1 (日 CLIL(内容言語統合型学習)を採用するこの授業では、日本文化 本文化) や社会について英語で考え、学ぶことを通して、日本について英語 で発信するために必要な知識と英語力とを養う。海外において「日本文化」に対する考え方が多様化する今日、この授業では、いわゆ る「伝統的な日本文化」について英語で発信するのではなく、 tel ろ映画や音楽、あるいはファッション、アニメやマンガなど現代の 日本文化に注目し、知っているつもりの日本文化について、英語で 考えディスカッションできるようにする。 CLIL(内容言語統合型学習)を採用するこの授業では、日本文化 English Workshop C2 (日 本文化) や社会について英語で考え、学ぶことを通して、日本について英語 で発信するために必要な知識と英語力とを養う。海外において「日 本文化」に対する考え方が多様化する今日、 この授業では、海外で 評価される、あるいはファンの多い映画や音楽、あるいはファッ アニメやマンガなど現代の日本文化に注目し、海外での受 ション、 をのあり方を日本での理解と比較するなど、内と外の両面から日本 文化を考えて議論し、あるいはプレゼンテーションをする力を養 この授業では、英語で書かれた様々なジャンルの文章を、その内 English Workshop D1 (英 容や文体にふさわしい読みやすい日本語に翻訳するために必要な知 日翻訳法) 識と技術を修得する。翻訳は、文化的違いなどさまざまな要素を勘 学 ク 案して行う極めて知的な営みである。受講者の英語力によって多少 部 の変更はあるが、原則として初回から10回目の授業までは英日翻訳 3 英 共 3 に必要な基本的な英語読解力の確認と、翻訳をするにあたっての基 本的な公式のようなものを演習形式で学ぶ。11回目以降はauthentic 語 通 ッ 科 プ (真正) な英語で書かれた英文を個人又はグループで翻訳をする。 H 科 機械翻訳が実用レベルに達しつつある今日ほど翻訳する力が求めら 目 れる時代はない。この授業では、英語を日本語に訳すために必要な 基礎から、将来翻訳家を目指すために必要な基本的技術までを身に つける。 この授業では、さまざまなジャンルの日本語を、その内容や文体 にふさわしい適切な英語に翻訳するために必要な英語力と翻訳に必 English Workshop D2 (日 英翻訳法) 要な知識と技術を習得する。翻訳は、文化的違いなどさまざまな要素を勘案して行う極めて知的な営みである。受講生の英語力によっ て授業のレベルには多少の変更はあるが、原則として初回から10回 目の授業は日英翻訳に必要な文法をはじめとする基本的な英語力の 確認と、日英翻訳の基本的な公式のようなものを演習形式で学ぶ。 11回目以降はマンガやエッセイなどを個人又は小グループで翻訳す - -与えられた日本語を理解し、その日本語にふさわしい英語に翻訳できる力は、機械翻訳が実用化しつつある今日こそ必要な技能であ る。この授業では、日本語を英語に翻訳訳するために必要な基礎か ら、将来翻訳家を目指すために必要な基本的技術までを身につけ English Workshop E1 この授業では、海外の大学に留学した際、あるいは在学中にレ (Academic Writing) ポートや卒業論文を英語で作成するために必要な基本的な知識と技 術を習得する。英語を書くために必要な文法や英文構成法を習得す 英文レポートや論文の構成、議論の進め方などの基本を 学ぶ。毎回の授業では、歴史や文化、あるいはコミュニケーション 学などに関する特定のトピックについて200-300 words程度の英文レ ポートを書く。また書いた英文レポートを少人数のグループで添削 することを通して、正確で論理的な英文ライティングの技術を修得 する。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業では、海外の大学に留学した際、あるいは在学中にレポートや卒業論文を英語で作成するために必要な知識と技術を習得 English Workshop E2 (Academic Writing) する。英語を書くために必要な文法や英文構成法を習得する以外 英文レポートや論文の構成、議論の進め方などを学ぶ。毎回の 授業では、特定のテーマについて300-500 words程度の英文レポート を書き、また書いたレポートを小グループで添削することを通し て、ネイティブ・チェックを受けなくても正確で論理的な英文を書 く力を養う。 この授業では、代表的な「おもてなし」 三大産業である、航空産 English Workshop F1 (Hospitality & テーマパーク産業、ホテル産業で使われる基本的な英語を修得 する。また、ホスピタリティ産業で求められる人材像を理解した上 Tourism) これらの産業で求められる(英語)表現や言葉のやり取りの背 景にある「おもてなし」の考え方について学ぶ。 日本が持続的な経済成長を達成し豊かな社会を実現していく上 ワ で、ホスピタリティ 関連産業の重要性は、年々高まっている。この 社会的状況を背景として、Hospitality & Tourismの授業では、ホス ク 部 ピタリティの職種で求められる実践的な英語能力を向上のみなら シ 英 共 以下の3つのことを目標とする。 \exists 語 通 ①日本及び外国文化の知識、興味、関心を高める。 ツ 系 科 ②「おもてなし」の背景にある哲学を理解する。 プ 目 ③ホスピタリティが必要とされる職業について広範な知識を得る。 科 目 English Workshop F2 この授業では、English Workshop F1 Hospitality & Tourismで (Hospitality & 学修した知識を基に、航空産業、テーマパーク産業、ホテル産業で 使われる実践的な英語を修得する。また、ホスピタリティ産業に対 Tourism) する理解を深め、これらの産業で求められる(英語)表現や言葉の やり取りの背景にある「おもてなし」の哲学について、国や文化に よる違いに注目してグローバルな視点から学ぶ ホスピタリティ関連産業の重要性が年々高まるなかで、 Hospitality & Tourismの授業では、ホスピタリティの職種で求めら れる実践的な英語能力を向上のみならず、以下の3つのことを目標と ①日本及び外国文化の知識、興味、関心を深める。 ②「おもてなし」の背景にある哲学の文化による違いを理解する。 ③ホスピタリティを必要とされる職業についても知識を深める。 English Skills (R&W) この授業では、主に英語の読む力と書く力を養う 1年次第1期の必修科目であるEnglish Skills (R&W) I では、高校ま でに学習した英文法の確認と語彙を増やすことに重点を置きなが ら、読み書きの基礎を固める。既存のReading教材とVocabulary S Buildingの教材を利用して授業を行うほか、TOEICのReading Sectionの問題など資格試験の問題も課外学習の一部として活用し u 読み書きの力を有機的に習得できるようにする。 玉 d 授業の終了時には、受講生は(1)authentic(真正な)英語で書か 際 У れた1000 words前後の新聞記事などを無理なく読める力を身につ (2) 与えられたテーマについて150~200 wordsの英文を書け 3 Α るようになる。 ュ b = r 開 ケー English Skills (R&W) II この授業では、英語の読む力と書く力を養う。 0 科 1年次第2期の必修科目であるEnglish Skills (R&W)II では、 目 English Skills (R&W) Iに引き続き、これまでに学習した英文法の シ ョ d 確認と語彙を増やすことに重点を置きながら、読み書きの基礎を固 める。既存のReading教材とVocabulary Buildingの教材を利用して В 科 授業を行うほか、TOEICのReading Sectionの問題あるいはケンブ а リッジ英検などCEFRのB2レベルの資格試験の問題も課外学習の一部 目 S として活用して、読み書きの力を有機的に習得できるようにする。 i 授業の終了時には、受講生は(1) authentic (真正な) 英語で書か С れた2000 words前後の論説文やエッセイを無理なく読める力を身に (2) 与えられたテーマについて250~300 wordsの英文を書 つけ、 けるようになる。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業では、英語の読む力と書く力を養う English Skills (R&W) III 1年次の必修科目English Skills (R&W) IとIIで養った読み書きの基 礎的な力を、より実践的な場で活用できるように伸ばし、専門科目 の学修や卒業論文、さらには就職後にも使える高度な読み書きを中 心とした英語運用能力を養う。 授業では、主に中上級レベルのReading教材を使用し、補助教材とし て英語圏で出版されている英語母語話者向けに書かれた文章を使用 する。また中級レベル (CEFRのB2レベル) 以上のWriting教材も使用 し、正しく的確な英語を書く力を養う。 授業の終了時には、受講生は(1)authentic(真正な)英語で書か れた専門分野の教科書を読める力を身につけ、(2)与えられた テーマについて500 words程度の英文が書けるようになる。 English Skills (R&W) IV この授業では、英語の読む力と書く力を養う 1年次の必修科目English Skills (R&W) IとIIで養った読み書きの基 礎的な力を、より実践的な場で活用できるように伸ばし、専門科目 の学修や卒業論文、さらには就職後にも使える高度な読み書きを中 心とした英語運用能力を養う 授業では、主に中上級レベルのReading教材を使用し、補助教材とし て英語圏で出版されている英語母語話者向けに書かれた文章を使用 また中級レベル (CEFRのB2レベル) 以上のWriting教材も使用 し、正しく的確な英語を書く力を養う。 授業の終了時には、受講生は(1) authentic (真正な) 英語で書か れた専門分野の教科書を無理なく読める力を身につけ、(2)与え 玉 d られたテーマについて1000 ~1500 words程度の英文が書けるように 際 У する。 Ξ Α b ュ r この授業は、英語を聞いて理解し、英語で自分の考えを発表する English Skills (S&L) I ケー 0 力を養う 科 1年次に英語コミュニケーションIとIIで養った基本的な英語を聞く 力と話す力を基に、母語話者が日常的に耳にするauthentic(真正 シ d ∃ な) 英語による10分程度のラジオ番組を無理なく理解できるように В する。また、自分の考えを3~5分程度の英語でのプレゼンテーショ 科 а くするために必要な英語力を習得する。 目 S 授業では主に中上級 (CEFRのB2からC1レベル) のリスニング教材と i スピーキング教材を使い、自信をもって英語を聞いて話すようにす С English Skills (S&L) II この授業は、英語を聞いて理解し、英語で自分の考えを発表する 力を養う 1年次に英語コミュニケーションIとIIで養った基本的な英語を聞く 力と話す力を基に、母語話者が日常的に耳にするauthentic (真正な) 英語による30分程度のラジオ番組を理解し楽しめるようにす る。また、自分の考えを5~10分程度の英語でのプレゼンテーション するために必要な英語力を習得する。 授業では主に中上級(CEFRのB2からC1レベル)のリスニング教材と スピーキング教材を使い、自信をもって英語を聞いて話すようにす る。 この授業は、専門的な内容について英語で学ぶために必要な学術 Reading for 英語読解力を養う3年次の履修必修科目である。コミュニケーション学に関するさまざまな論文を読み、その内容についてディスカッションをし、さらに英文で要約したり、自分の考えを英文にまとめ Communication Studies るなど、卒業論文の作成時に必要な英語力が身につく。 授業では、英語圏の大学で使用するコミュニケーション学の教科書 あるいは研究書を教材に使用し、学術論文をより速く正確に読める ようになる。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業は、2年次必修科目である English Skills (S&L) I とII Digital Presentation in で習得した、英語で自分の考えを話す力を基盤とし、パワーポイン English トなどを使用してより説得力のある英語プレゼンテーションを行う 力を養う。さらに、プレゼンテーションを聞いて、英語で適切な質 問をする力を、応答する力を合わせて習得する。与えられたトピッ クに関するプレゼンテーションの準備から発表までのプロセスを 個人によるもの、小グループによるものなどいくつかの状況を想定 し、英語でのプレゼンテーション全般について総合的に学ぶこと 自由に英語で発言し、意見交換ができるだけのスピーキングの 力を養う。 異文化理解A この授業は、学科が指定するさまざまな海外研修や海外留学に参 加した学生を対象とする選択必修科目である。授業では、受講生そ れぞれが、各自の異文化体験を振り返り、その体験を言語化するこ とを通して、経験から得られる意味を考える 受講生の渡航先は必ずしも同じではなく、また同じ渡航先であって も得られる経験は各人によって異なる。グループ・ディスカッショ / 等によりそれぞれの異文化体験の共有、及び異文化理解あるいは 異文化コミュニケーションに関する知見を基にした振り返りを通し て、海外での生活の中から得られる学びを明確にし、異文化への理 解と関心を一層深めるとともに国際的な視野を養成する。 S 異文化理解B この授業は、学科が指定する海外研修や海外留学に参加しない学 u 生が、学内において疑似的に異文化について体験的に学ぶための英 玉 d 語母語話者によるCLIL(内容言語統合型学習)の授業である。 際 受講生は、異文化接触場面(contact situations)における多様な インターアクションを、留学生や外部講師も交えて疑似的に体験 У \Box Ξ Α し、言語や文化の異なる人々とのコミュニケーションのあり方につ 크 b いて学ぶ r この授業を通して、受講生の異文化への理解と関心を一層深めると ケー 0 ともに国際的な視野を養成する。 科 а シ d 英語の4技能のうち特にリーディングに関する授業。受講生は、パ Comprehensive English AI 3 ラグラフ・リーディングの基本を学び、授業で習得したリーディングの技能を使って、1000語程度までの長さのauthentic (真正な) 英 В 科 а 語で書かれた比較的優しいニュースや論説文などCEFRでA2~B1レベ 目 S ルの英文が読めるようになることを目標とする。また、読んだ英文 i の内容を英語で要約し、その内容について議論するあるいはプレゼ ンテーションができるようにする。 С なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ない。 英語の4技能のうち特にリーディングに関する授業。受講生は、パ Comprehensive English ラグラフ・リーディングの基本を学び、授業で習得したリーディン ATT グの技能を使って、1000語以上の長めの CEFRでB1~B2レベルの authentic(真正な)英語で書かれた論説文やエッセイなど英文が読 めるようになることを目標とする。また、読んだ英文の内容を英語 で要約し、その内容について議論するあるいはプレゼンテーション ができるようにする。 なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ない。 英語の4技能のうち特にリスニングに関する授業。受講生は、自然 Comprehensive English BI な速度で話されるCEFRでA2~B1レベルauthentic(真正な)英語によ るテレビやラジオのニュース番組がおおむね理解できることを目指 す。また、日常生活で耳にするアナウンスや電話のメッセージなど を正しく理解できるようになることを目指す。授業では聞き取った 英語の情報を英語で要約したり、ニュースなどについては簡潔に英 語で意見を述べることができるようにする。 なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ない。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 英語の4技能のうち特にリスニングに関する授業。受講生は自然な 速度で話されるCEFRでB1~B2レベルauthentic(真正な)英語による Comprehensive English BIT 理解できるようになることを目指す。授業ではテレビやラジオで放 送されるニュース以外に、30分~1時間程度のテレビドラマや映画な どさまざまなメディアを通して耳にする英語を正しく理解でき、その内容をほかの人に伝えることができるようにする。 なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ない。 英語の4技能のうち特に英文法の理解を深めて正しい英文を書くた Comprehensive English CI めの授業。受講生は、英文法の基礎を学び、授業で習得した文法の 知識を使って、自分の考えや意見を正しい英文で表現できるように なる。 授業では、学んだ文法的な知識を活用し、与えられたテー て、500語から1000語程度のまとまった内容を持つ英文が書けるよう になることを目指す。英語のレベルとしてはCEFRのA2~B1レベルを 想定している。 なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ない 英語の4技能のうち正しい英文を書くための授業。受講生は、パラ Comprehensive English グラフの概念を正しく理解し、これまでに習得した文法の知識を 使って、自分の考えや意見を自由に表現できるようになる。 CII 授業では、与えられたテーマについて、複数のパラグラフからなる 1000語から20000語程度のまとまった内容を持つ英文が書けるように なることを目指す。英語のレベルとしてはCEFRのB1~B2レベルを想 定している。 なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め u Comprehensive English DI 英語の4技能のうち特にスピーキングに関する授業。受講生は、日 玉 d 常的な会話が十分にできるようになり、3分から5分程度の内容のあ 際 у るスピーチができるようになることを目指す。特にこの授業では、 \neg 個々の単語の発音や比較的短い文章イントネーションなど、標準的 Ξ A で適切な英語での発話に必要な力が身につくようにする。英語のレ ュ b ベルとしてはCEFRのA2~B1レベルを想定している。 r 開 なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ケー 0 科 ない。 а シ d 3 英語の4技能のうち特にスピーキングに関する授業。受講生は、 Comprehensive English В 常的な会話が十分にできるようになり、5分から10分程度の内容のあ 科 а るスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指 す。標準的で適切な発音やイントネーションに限らず、表現力のあ 目 i るスピーチが可能となるよう、短いパラグラフ単位での英語の発話 С について丁寧な訓練を行う。英語のレベルとしてはCEFRのB1~B2レ ベルを想定している なお、この授業での使用言語は英語のみとし、日本語の使用は認め ない。 海外言語文化概論I 海外言語文化概論Iでは、特定の地域で使用される言語とその言語 によって創造された言語文化について、以下の3点について学ぶ。 ①その言語の果たす役割や特質について基盤的知識を身に付けられ るよう、地域で使用される言語について入門レベルの基本的言語能 力を身につける ②言語と文化の関係について歴史的概要を学ぶ。 ③入門レベルの言語知識で理解できるレベルで、人々が日常的に接 する子供向けの書籍や童謡などを通して言語文化の特徴を理解す 海外言語文化概論II 海外言語文化概論IIでは、特定の地域で使用される言語とその言 語によって創造された言語文化について、以下の3点について学 ①その言語の果たす役割や特質について基盤的知識を身に付けられ るよう、地域で使用される言語について初級レベルの基本的言語能 力を身につける。 ②言語と文化の関係について歴史的概要を学ぶ。 ③初級レベルの言語知識で理解できるレベルで、その地域が良く 知っている昔ばなし、人々が日常的に触れるテレビ番組などを通し て言語文化の特質を知る。

5 授 業 科 目 の 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 海外言語文化事情Iでは、特定の地域で使用される言語とその言語 によって創造された言語文化について、主に次の3つを学ぶ。 海外言語文化事情I ①その言語の果たす役割や特質について基盤的知識を身に付けられ るよう、地域で使用される言語について初級から準中級レベルの基 本的言語能力を身につける。 ②その言語の母語話者へのインタビューなどを通して、階級や教育 レベルによって変化する言語と文化のあり方を体験的に学ぶ ③その地域のテレビや映画、ラジオ番組に触れ、その文化的な特質 を言語の視点から考える。 海外言語文化事情II 海外言語文化事情IIでは、特定の地域で使用される言語とその言 語によって創造された言語文化について、主に次の事柄について学 ①その言語の果たす役割や特質について基盤的知識を身に付けられ るよう、地域で使用される言語について初級から準中級レベルの基 本的言語能力を身につける。 ②その言語の母語話者へのインタビューなどを通して、階級や教育 レベルによって変化する言語と文化のあり方を体験的に学ぶ。 ③その地域で継承されてきた芸能などの言語文化について、歴史 的・社会的背景を学ぶ。 t u 玉 d 海外言語文化研究I 海外言語文化研究Iでは、特定の地域で使用される言語とその言語 際 у によって創造された言語文化について、既に基礎的な知識を修得したことを前提に、以下のようなことを目標とする。 ①語彙の増強や文法に関する知識の拡充など、現代の文芸作品を鑑 コ Ξ A ュ b 賞する際に必要な基本的な読解力の養成。 r 開 ②個別の文芸作品の社会的あるいは文化的な背景に関する知識の修 ケー 0 科 а ③現代の代表的な文芸作品全般に関する基本的な知識の修得と個々 シ d の文芸作品に対する批評や一般的な評価に関する理解。 ∃ В 科 а 目 S i 海外言語文化研究II 海外言語文化研究Iでは、特定の地域で使用される言語とその言語 С こよって創造された言語文化について、既に基礎的な語学に関する 知識を修得したことを前提に、主に以下のようなことを修得するこ とを目標とする。 ①テレビやラジオ番組を聞いて理解する際に必要な語学力を養成す ②テレビやラジオを中心とするメディアのニュース番組で使用され る言語の特徴(語彙や文体等)に対する理解を深める。 ③複数のメディアの報道を比較し、報道における立場の違いとそこ で使用される言語的な違いについて比較し理解する。 海外言語文化研究IIIでは、基礎的な知識を修得したことを前提 海外言語文化研究III こ、その言語によって創造された言語文化について、主に次の事柄 を学ぶ。 ①言語の果たす役割や特質について十分な知識を身に付けられるよ う、地域で使用される言語について初級から準中級レベルの基本的 言語能力を身につける。 ②「国語」の成立について歴史的・政治的な視点から学ぶ。 3 「国語」と「国語」をめぐる文化の成立が、特定の国や地域の言語と文化の多様性にどのように関わってきたのかを学ぶ。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 海外言語文化研究IVでは、特定の地域で使用される言語とその言語によって創造された言語文化について、基礎的な知識を修得した 海外言語文化研究IV ことを前提に、その地域の言語を実際の生活で使用することによっ て形成されてきた文化的言語生活、さらには、現代まで歴史的に表 S 現し、受容されてきた文芸や演劇、芸能などさまざまな言語芸術全 般について広く学ぶ。特にこの授業では言語芸術としての伝統芸能 t. や祝祭とその観光による商品化などについて、具体的な事例を取り 上げながら学ぶ。またこのような学びを可能とするために不可欠な u d 中級レベルの言語運用能力を身につける。 b 海外の企業や公的機関等の現場で就業体験や実務研修、ビジネス グローバルインターンシッ r 視察を行うことで、海外での実践的なビジネス力を育成する。プロ グラムの特徴に応じて、現地での研修に必要な社会的・文化的な知 0 а 識の修得を目的とした語学研修も含むことがある。異なる文化、社 d 会的背景への深い理解に基づく国際コミュニーケーション力を涵養 グローバルスタンダードの視点から自身のキャリアを築く肌感 В 覚を磨くのが本実習の到達目標である。実際にインターンシップに а 参加することでグローバル人材としての素養を伸ばす。グローバル キャリア論の事前受講が推奨される i 実習については夏期、春期を予定しているが、外務省の海外安全 С 情報等を参考にしながら、渡航先の状況を十分に確認したうえで、 S 年度ごとにその実施の是非を判断する。また実習を予定している 国・地域が感染症などの影響で渡航できない場合、オンラインでの 海外就業体験を代替実習として行うことがある。 玉 現在、多くの人が、身体、モノ、情報、イメージ、資本を、さまざまな境界を越えて移動させながら、日常生活を営んでいる。国境 際 国際コミュニケーション基 碟 \Box Ξ を越えるさまざまな移動が活発化し、 グローバル化が進展している 現代社会で生きるには、自分とは文化的背景が異なる人びとについ ュ て理解するための、態度や方法を学ぶことが重要である。この授業 開 では、多様な文化的背景の人びとと共生するための「国際コミュニ ケー 科 ーション」について学ぶ。 「国際コミュニケーション」に関連す る基本的な概念、理論、方法を理解し、私たち自身の日常的なコ シ ミュニケーションのあり方をとらえなおす。講義科目であるが、学 ∃ 生によるディスカッションや発表の場を設け、授業で学んだ概念、 科 理論、方法を、学生が自ら使えるようになることを目指す。 目 多文化社会で働く 履修者が卒業後に実際に多文化社会で働くことができる人材とな れるように意識を高める。複数のゲストを招聘して、多文化に関連 する仕事の幅の広さを理解し、多文化社会で働くうえで必要なマイ ンド、知識、スキルについて知見を深める。招聘するゲストの業務 内容としては、例えば、顧客が外国人であるBtoCビジネス(観光 業、航空業、小売業など)、顧客や取引先が海外企業であるBtoBビジネス(商社、製造業など)、国内で外国人に対応する行政スタッ 科 専 菛 フ、部下が外国人である管理職などである。授業形態は講義が中心 科 目 「生活のなかで人間を発見し、人間を通して、生活を見つめ、そのことによって、人間にとっての『生きる』ことの意味を探求する」のが生活学という学問の立場である。この授業では、生活学の 移動の生活学 立場から私たちの日常生活をとらえなおすが、特に「移動」という 側面に注目する。通学、通勤、ケア、旅行、移住のための人間の移 動、商品や贈り物などの物の移動、メディアに登場するイメージを 通じた想像のなかの移動、コミュニケーションのためのメッセージ やイメージの移動。これらの多様で複雑な「移動」によって成り IJ 立っている、私たちの日常生活についての理解を深める。多様な移 テ 動の中で/移動を通じて、どのように/どのようなコミュニケー ションが生まれ、社会的関係が形成されているのか?21世紀の都市 において、人びとはどのように移動を経験しているのか?こうした 問いに答えるための概念、理論、方法を、講義形式の授業とディス カッションを通して学ぶ

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 移動の社会学 本科目は 「ヒト」「モノ(商品)」「コト(情報)」の国境を 越えた移動によって特徴づけられる現代を社会学的な観点から理解 することを目指す授業である。1990年代以降、たびたび現代は「グ ローバル化社会」と呼ばれてきたが、その主たる対象は政治経済を 中心とした「大文字」のグローバル化であった。ところが2020年 代、グローバル化は日本のなかにも生じている。各都市には異なる 文化、民族的背景を持つコミュニティが存在しているし、私たちが 手にするスマートフォンのなかにも常に国の内外を問わず情報が共 有されている。つまり、数多くの「小文字の」グローバル化と共存しているのであり、このような状況を、コミュニティスのボガロ ディア等の複数の社会学的な視点から分析する力を培うのが本科目 ビ の目標である。 IJ テ 現代世界における人間現象を移動/文化というキーワードで考察 移動の文化学 することを目標とする。そのため、まず「文化の移動」という観点 から、世界の様々な文化がいかにグローバルに移動してきたのかを 解説する。次に「移動の文化」という観点から、それぞれの文化の 中で移動がどのように意味づけされ、実践されているのかを検討す る。最後に、移動/文化の多様性と普遍性を議論の遡上にのせた上 現代世界における移動/文化をめぐる諸問題と可能性を解き明 私たちにとって身近な日常から、世界の様々な文化まで、具 体的な例を適宜参照しながら講義を進める。 古今東西、人が移動し共同体を形成するところ、あまねくメディフ メディア文化論 は発生してきた。講義形式で進める本科目は、移民コミュニティの 際 ローカルなエスニック・メディアから、異なる地域に住む人々がク \sqcap ローバルに交流するトランスナショナル・メディアまで、国境を越 学 えるコミュニケーションの様々な事例を扱いながら、 「移動 ユニケー 科 (mobilities)」のもたらすメディア文化について論じていく。 人、モノ、情報がグローバルに移動する現代社会のメディア文化 開 専 の関心と理解を深め、新たな問いを発見する素養を身につけること 科 科 を目標とする。 シ 日 3 音楽文化論 私たちの日常生活には、ポピュラー音楽を中心とした音楽が様々 科 な形で浸透している。音楽は、単に娯楽として生活に潤いを与える あるいは経済的に、あるいは社会的に、様々な広がり 目 をもつ文化現象の核となっている。「ポピュラー音楽」概念の歴史 性を批判的に検討し、ポピュラー音楽がいかなる意味において「ポピュラー」であり、どのような音楽「ではない」のかについて議論 することを通して、ポピュラー音楽の本質を、複製技術、商品化と いった文脈から捉え直す。続いて、録音技術の導入以降のポピュ ラー音楽史から、エピソードを取り上げ、それぞれの時代の大衆文 1 化という文脈において、ポピュラー音楽の享受がどのような形で展 バ 開されているのか、という観点からポピュラー音楽を取りまく社会 ル 状況や文化産業について、具体的事例に触れながら、考えていく。 スポーツ文化論 スポーツは、人間の身体活動を基盤として成り立ち、文化として 人々の生活に根差してきた。歴史とともにスポーツのあり方は変容 してきたが、今日のグローバル化はスポーツにさらなる変化をもた らしている。14カ国の参加から始まった近代五輪は、現在、200を超 える国・地域が参加する世界的スポーツイベントへと発展した。 た、野球、サッカー、バスケットボールといったプロスポーツは市 場を世界に広げ、観客は世界各地で開催される競技をリアルタイム で楽しみ、選手は自分に最も良い環境を求めて国を越えてトレーニ ングを行っている。一方、オリンピックの商業化や地域格差、人材 の流出など、グローバル化がもたらした弊害もあるだろう。 そこでこの科目では、歴史、政治、民族、メディア、産業など 様々な観点から文化としてのスポーツについて包括的に学びなが ら、グローバル社会におけるスポーツのあり方についても考えを進 めていく。

業 5 授 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 本講義では、ニューツーリズムを中心に観光と文化の関係につい 観光文化論 て学ぶ。日本のニューツーリズムを類型化し、その形成過程や特 徴、役割、意味を、具体的な事例を通して解説していく。そして その背景にある社会環境、地域環境、文化的側面、旅行者意識の変 化などを探る。特に食文化に関わるフードツーリズムやコンテンツ ツーリズムに重点を置く。実際のニューツーリズムに関するデータ バ や事例を活用しながら、観光と文化の関係について学生とともに考 ル 異文化組織の経営に関する理論的系譜を学び、実践的な課題に応 異文化マネジメント論 用できるように理解を深める。Cross-cultural management, global international human resource managementなどの理論 こついて学習する。また、海外人材とのチームワークやコミュニ ケーション、海外駐在を含めた国際的なキャリア形成などの実践的 な課題について現状を理解し、理論的に考察できる力を養う。理論 を学習すると同時に、実践的な課題について検討する力を養うこと で、履修者自身の異文化マネジメント能力を形成する一助とするこ とを目指す。授業形態は講義が中心となる。 本講義では、ホスピタリティ産業を代表する観光産業を中心に、 ホスピタリティ産業論 それらがもたらす社会的、経済的、文化的な効果と、私達の日々の 生活とのかかわりについて学ぶ。また、観光関連産業におけるサー ビスとホスピタリティのあり方を考える。観光という社会現象は、 観光に係わるサービス業によって支えられてる。観光サービスやホ スピタリティの視点から、観光ビジネスとしての旅行事業、宿泊事業、航空事業、鉄道事業、観光施設事業や観光まちづくり、観光政 玉 策などについての知識を習得する。 際 \neg 観光ビジネス論 本講義では、海外旅行商品を中心に学び、今後の観光ビジネスに Ξ + 学 ついて多面的な見方を培う。旅行会社の店頭に設置されている旅行 그 = パンフレットはよく見るが、旅行商品はどのように作られているの 開 車 ケー かは一般に知られていない。授業では旅行商品の歴史や、それらの 科 門 ァ 商品がどのように作られているのか、何がポイントなのかを学ぶこ 私 とで国際観光ビジネスについて考える。また、実際に授業の中で旅 目 行商品を企画することで、プランニング能力を磨く。実際の海外旅 行に関するマーケティングデータや事例を活用しながら、国際観光 3 行に関するマーケティンティークで事例を60万 にながら、国际戦ルビジネスについて学生とともに考えていく。海外旅行商品に関する基本的な知識を習得し、旅行商品を創る上で必要となる用語を覚える。以上の学修を通じて、国際観光ビジネスをプロデュースする視点で考えられる力を身につけることが、本講義の目標である。 科 目 グローバルキャリア論 グローバル化する社会の中では、国際的に活躍しうる人材に求め られる能力は何かを考え、行動できる力をつける必要がある。講義 では海外で働くことや他国の人と共同で作業を行うにあたっての心 構え、基本的な海外での振舞い方、海外での危機管理、及び他国の 文化的背景を学ぶ。海外の企業・団体での就業や異なる国・ 地域の人々と協業するための基本的な考え方とスキルを習得するこ とが本講義の到達目標である。本科目の受講者には、グローバルイ ンターンシップへの参加が推奨されており、実際の海外での就業体 験を通じて幅広いキャリアデザインを考える機会を提供する。 英語学概論 この授業は、英語という言語に関する事柄をさまざまな観点から 学んでいく。英語の音に関する知識、文法に関する知識を始め、英語を運用するために不可欠な情報を提供する。また、英語が国・地 域だけでなく、社会階層や時代によっても異なることを社会言語学 的な見地から学ぶ。さらに、現代社会において、英語が主要な言語 として、世界のさまざまな国や地域で使用され、同時に、いろいろ 語 なタイプの英語が存在することにも触れる。加えて、英語がどのよ うな歴史的変遷を経て、現在に至るかを学び、英語の実態について の理解を深めてもらう。

5 授 業 科 目 മ 概 要 (コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) 科目 授業科目の名称 講義等の内容 備考 区分 この授業は、グローバル社会と呼ばれる現代において、さまざま な属性をもった他者とコミュニケーションを取るために、必要不可 比較文化論 欠な知識を提供し、それらの知識に基づいて自分自身で理解し、 践に役立ててもらうことを目的とする。人間がもつ世界観・価値観 に関する国や地域による違いだけでなく、時代による違いや世代に よる違いなど、多角的な視点から観察することを学び、文化の多様 性についての認識を深める。加えて、人間とは何かについても考察 を深めていく。適宜、英語の資料や教材を使用する。 英米文学 「英米文学」は古典作品がなぜ現代でも読解に値するかを、現代 社会の文化的力学の下で生きている学生が意識できるような内容と なっている。そこでは16世紀以降の政治的・経済的・文化的な社会状 況、すなわち植民地主義、資本主義、軍事主義といったイデオロ ギーの中で培われてきたジェンダーや人種や階級をめぐる差別や排 除の言説と、当時の文学作品がどのように連動して生産されてきた かが検討される。例えば英国ルネサンス演劇の精華とされるシェイ クスピア演劇は、英国が他のヨーロッパ諸国との植民地獲得競争を 開始する時期に、英語に基づく国民国家を建設する意図をもった国 家体制の下で生産され、その後の英帝国拡張における教育手段とし 「古典」とされてきたが、それを現代の状況において読み返す とは、現代世界の成り立ちが5世紀に亘る政治的文化的闘争の帰結で あるという認識を導くだろう。 「英米文化論」が留意するのは「英語」というメディアがどんな 影響力をもってきたか、また今後も持つだろうかという歴史的視点 英米文化論 その背景には5世紀に亘る英国の植民地支配と、 国の成立と衰退、そしてそれを引き継いだアメリカ合州国の世界覇 権がある。そうした「英語帝国主義」の下で、童話、演劇、小説、 詩、映画、音楽、絵画、舞踊、ミュージカルといった文化表象が 玉 際 「英米文化」を代表するものとして影響力を持ってきたのだが、近 年はインターネットに代表される「英語」をメディアとした情報テ \Box Ξ 学 クノロジーの進展がさらに英米文化の覇権を強化してきた。この講 ュ 科 義ではそうした歴史を踏まえ、様々な作品を文化テクストとして読 開 専 英 解し、いまだにそうした「英米文化」の圧倒的な影響力のもとに過 ケー 科 語 `している履修者が、自らの文化的力学に敏感となれるような授業 科 シ 目 3 英語・文化論 Lの授業は、CLIL(内容言語統合型学習)により行われる。授業 科 では、異文化コミュニケーションに関する基本的知識を学び、さら 目 その知識を生かして、外部講師の講演の事前学習として国や地域 に関する基本的な情報を学ぶ。言語や文化の異なる外部講師による 講演と質疑応答、及びその事後学習でのグループ・ディスカッションを行う。これらを通して、社会や世界との関わりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現 状と課題について、主に英語圏出身者を中心とする外部講師との交流を通じて体験的に学ぶ。 英文構成法 この授業では、既に学習した英文法の知識を使って、日常生活か らビジネスに至るまで、さまざまな状況で求められる英語を書く力 を養う。 これまで学修した英文法や語彙など、各受講生が持つ英語の知識を どのように活用して、それぞれの目的に合った英語を書くのかを、 モデルとなる英文などを参考にしながら習得する。受講生の英語を 書く力によって多少変わるが、150~200語程度の英文を書く練習か ら始め、推薦状、論説文、報告、手紙など、ある程度長さのあるま とまった英文を書く力を養う。 パブリック・スピーキング この授業で受講生は、英語でのプレゼンテーションやスピーチに 必要な理論的枠組みを学び、その実践に求められる基本的な技能を 習得する。毎週の授業では、英語を使って課題の設定からプレゼン テーションに至るプロセスを、順を追って具体的に体験することに なる。 授業で与えられるテーマに沿って自ら課題を設定し、その課題につ いて調査研究を行い、自分の考えを英語で5分から10分程度発表し、 その後に英語でのグループ・ディスカッションを行う。 受講生は、聴衆を想定しながら内容を構成し、英語での効果的な伝 え方を言語・非言語の両面から修得する。

5		授	業	科	目	の	概	要	
(コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)									
科目区分	授業科目の名	名称		備考					
自由認定	海外短期研修		学外研修 (2) (2) (2) (4) (4) (4) (5) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7						

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合者しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人東京経済大学 東京経済大学コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科設置届出に関わる組織の移行表

 令和3年度
 入学編入学収容定員定員
 令和4年度
 入学編入学収容定員定員定員
 次更の事由

	定員	定員	定員		
東京経済大学					
経済学部					
経済学科	375	_	1500		
国際経済学科	155	_	620		
 経営学部					
経営学科	385	_	1540		
120111		3年次	1010		
流通マーケティング学科	180	30	780		
コミュニケーション学部		3年次			
コミュニケーション学科	225	30	960		
用化注 类如					
現代法学部		3年次	1040		
日本の現代法学科 日本の主義	250	20	1040		
=1		3年次	0440		
計	1570	80	6440		
* - 42 * - 44 - 45					
東京経済大学大学院					
経済学研究科					
経済学専攻(M)	10	_	20		
経済学専攻(D)	5	-	15		
経営学研究科					
経営学専攻(M)	10	_	20		
経営学専攻(D)	3	-	9		
コミュニケーション学研究科					
コミュニケーション学専攻(M)	20	-	40		
コミュニケーション学専攻(D)	5	-	15		
現代法学研究科					
現代法学専攻(M)	10	_	20		
計	63	_	139		

1341112	定員	定員	定員	久久 以 于田
東京経済大学				
と 経済学部				
経済学科	375	_	1500	
国際経済学科	155		620	
	100		020	
経営学部				
経営学科	385		1540	
┃ 流通マーケティング学科		3年次	790	
加通マーバイング・子行	100	30	780	
コミュニケーション学部		3年次		
<u>メディア社会学科</u>	<u>150</u>	<u>0</u>	<u>600</u>	名称変更
				定員変更(△75)
				令和6年4月3年次編入 学学生募集停止
国際コミュニケーション学科	90	_	360	学科の設置(届出)
	<u>50</u>		000	于140000世(油山/
現代法学部		3年次		
現代法学科	250	20	1040	-
		3年次		
計	<u>1585</u>	<u>50</u>	6440	
 東京経済大学大学院				
経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	_	20	
経済学専攻(D)	5	_	15	
経営学研究科				
経営学専攻(M)	10	_	20	
経営学専攻(D)	3	_	9	
コミュニケーション学研究科			_	
コミュニケーション学専攻(M)	20	_	40	
コミュニケーション学専攻(D)		_	15	
現代法学研究科	J		. 3	
現代法学専攻(M)	10	_	20	
計	63		139	-
н			.00	